

令和 4 年度
白山市教育委員会

事務事業点検評価報告書

白山市教育委員会事務局

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、教育委員会では毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を実施し、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務付けられています。

この報告書は同法の規定に基づき、白山市教育委員会が令和4年度に実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、学識経験者 浅野 秀重 氏にご意見をいただき、まとめたものです。

令和5年9月

白山市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

◇白山市教育委員会事務事業の点検評価に対する概要	1
◇学識経験者の所見（事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告について）	7
◇令和4年度白山市教育委員会教育行政の基本目標及び基本施策	11
◇令和4年度白山市教育委員会教育行政の基本目標別事務事業点検評価項目一覧	13
◇事務事業別点検・評価シート（個別シート）	

◎基本目標1 確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）

事業名	家庭教育充実事業	33
	いしかわ道徳教育推進校指定事業	34
	部活動指導員配置事業	35
	教育相談事業	36
	少人数教育推進事業	37
	外国語指導助手配置事業	38
	特別支援教育事業の推進	39
	地元産食材使用推進事業	40
	教職員研修事業	41

◎基本目標2 教育環境の整備充実

事業名	小中学校施設整備事業	43
	通学路合同点検事業	44
	児童生徒就学支援事業	45

◎基本目標3 文化の継承と創造

事業名	松任中川一政記念美術館管理運営事業	47
	博物館管理運営事業	48

◎基本目標4 地域に根ざした特色ある学校の創造

事業名	感性のびのび俳句大会の実施	49
	SDGs・白山手取川ジオパーク研究事業	50
	学校図書館充実事業	51

◎基本目標 5 生涯にわたり学び続ける環境づくり

事業名	生涯学習施設等活用推進事業	53
	生涯学習のまちづくり推進事業	54
	公民館活動推進事業	55
	子どもの権利条例啓発事業	56
	子どもに関する相談事業	57
	青少年育成事業	58
	図書館管理運営事業	59
	学校図書館支援センター推進事業	60
	公民館施設整備事業	61

◎基本目標 6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進

事業名	地域スポーツ推進事業	63
	スポーツ振興総務事業	64
	ジュニア競技力向上育成事業	65
	学校開放推進事業	66

◇令和4年度白山市教育委員会の活動状況

67

◇学識経験者の所見（基本施策及び自己点検・評価に係る意見）

69

白山市教育委員会事務事業の

点検評価に対する概要

白山市教育委員会事務事業の点検評価に対する概要

1 点検評価の実施方法

(1) 評価の対象

令和4年度に実施した教育委員会事業について、白山市教育振興基本計画の基本目標ごとに、1「確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）」を基本目標とする9事業、2「教育環境の整備充実」を基本目標とする3事業、3「文化の継承と創造」を基本目標とする2事業、4「地域に根ざした特色ある学校の創造」を基本目標とする3事業、5「生涯にわたり学び続ける環境づくり」を基本目標とする9事業、6「健康な心身をはぐくむスポーツの推進」を基本目標とする4事業の合計30事業を事業担当課が選定した。

(2) 評価の観点

有効性（達成度）、必要性（ニーズの変化、※市の関与）、効率性、公平性の観点から評価を行った上で、事業の課題について総括した。

※市とは市教育委員会

(3) 評価の主体及び方法

事業担当課が「事務事業評価シート」により、自己評価を実施し、学識経験者からの所見を踏まえ、意見を記載した。

2 事業担当課及び事業数

教育委員会事務局 (24事業)	基本目標						計
	1	2	3	4	5	6	
教育総務課		1					1
学校教育課	1	2					3
学校指導課	6			3			9
教育センター	2						2
生涯学習課					6		6
子ども総合相談室					1		1
松任図書館図書課					2		2
観光文化スポーツ部 (6事業)	基本目標						計
	1	2	3	4	5	6	
博物館			1				1
松任中川一政記念美術館			1				1
スポーツ課						4	4
計	9	3	2	3	9	4	30

3 評価結果の概要

(1) 有効性（達成度）

有効性（達成度）について、下記の内訳のとおり、選定した事業については、期待以上又は概ね期待どおりの成果があると事業担当課で評価した。

[単位：事業数・%]

	基本目標	S	A	B	C	D	計
1	確かな学力の形成と豊かな心の育成 (感性のびのび教育の推進)	0(0.0%)	1(11.1%)	8(88.9%)	0(0.0%)	0(0.0%)	9
2	教育環境の整備充実	0(0.0%)	1(33.3%)	2(66.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3
3	文化の継承と創造	0(0.0%)	0(0.0%)	2(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2
4	地域に根ざした特色ある学校の創造	0(0.0%)	0(0.0%)	3(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3
5	生涯にわたり学び続ける環境づくり	1(11.1%)	2(22.2%)	6(66.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	9
6	健康な心身をはぐくむスポーツの推進	0(0.0%)	0(0.0%)	4(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	4
	計	1(3.3%)	4(13.3%)	25(83.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	30

(注) S・・・期待を大きく上回る

A・・・期待を上回る

B・・・概ね期待どおり

C・・・期待を下回る

D・・・成果が少なく向上の見込みなし

(2) 必要性、効率性、公平性

必要性、効率性又は公平性の3つの評価のうち、全ての事業において、いずれかの観点でも見直しの余地無し、又は当面は見直しの余地なしとしている(表1)。

なお、改善の余地の有無について、各評価項目における評価の内訳は表2のとおり。

(表1) 必要性、効率性又は公平性における改善の余地の状況

基本目標	余地なし 当面余地なし (事業数)	余地あり (事業数)	(余地ありの内訳 (項目数))	
			R 5改善	R 6以降改善
1 確かな学力の形成と豊かな心の育成 (感性のびのび教育の推進)	9	0	0	0
2 教育環境の整備充実	3	0	0	0
3 文化の継承と創造	2	0	0	0
4 地域に根ざした特色ある学校の創造	3	0	0	0
5 生涯にわたり学び続ける環境づくり	9	0	0	0
6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進	4	0	0	0
計	30(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

(表2) 各評価における改善の余地の内訳

必要性

基本目標	余地なし (事業数)	当面余地なし (事業数)	余地あり (事業数)	
			R 5改善	R 6以降改善
1 確かな学力の形成と豊かな心の育成 (感性のびのび教育の推進)	6	3	0	0
2 教育環境の整備充実	3	0	0	0
3 文化の継承と創造	1	1	0	0
4 地域に根ざした特色ある学校の創造	2	1	0	0
5 生涯にわたり学び続ける環境づくり	2	7	0	0
6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進	2	2	0	0
計	16(53.3%)	14(46.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)

効率性

基本目標		余地なし (事業数)	当面余地なし (事業数)	余地あり (事業数)	
				R 5改善	R 6以降改善
1	確かな学力の形成と豊かな心の育成 (感性のびのび教育の推進)	3	6	0	0
2	教育環境の整備充実	2	1	0	0
3	文化の継承と創造	0	2	0	0
4	地域に根ざした特色ある学校の創造	2	1	0	0
5	生涯にわたり学び続ける環境づくり	1	8	0	0
6	健康な心身をはぐくむスポーツの推進	2	2	0	0
計		10(33.3%)	20(66.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)

公平性

基本目標		余地なし (事業数)	当面余地なし (事業数)	余地あり (事業数)	
				R 5改善	R 6以降改善
1	確かな学力の形成と豊かな心の育成 (感性のびのび教育の推進)	4	5	0	0
2	教育環境の整備充実	2	1	0	0
3	文化の継承と創造	1	1	0	0
4	地域に根ざした特色ある学校の創造	2	1	0	0
5	生涯にわたり学び続ける環境づくり	3	6	0	0
6	健康な心身をはぐくむスポーツの推進	2	2	0	0
計		14(46.7%)	16(53.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)

(3) 自己評価を踏まえた課題への取り組み

上記評価を踏まえた各事業の課題については、各事業担当課が改善に向けての取り組みを行うこととしている。なお、より一層効果を高めるための取り組みや、より効率的な実施方法の見直し等について検討が必要な事業が一部あり、学識経験者の所見を添えることとする。

(4) 点検評価を行う学識経験者について

点検評価を行うにあたり、透明性・客観性の確保の点から、教育に関し学識経験を有する大学名誉教授に依頼することとした。

(5) 学識経験者の所見

「事務事業評価シート」を基に、各事業担当課が学識経験者に事業内容を説明し、意見をいただいた。なお、所見は事業区分ごとに取りまとめ記載した。

(6) 各事業における評価結果

「事務事業評価シート」のとおり。

学識経験者の所見

(事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告について)

白山市教育委員会の令和4年度教育に関する

事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告について

金沢大学名誉教授

浅野 秀重

1 はじめに

白山市は、「ふるさと白山の 未来を拓く ひとを育てる ～地域とともに～」を基本理念に掲げ、「ふるさとへの愛着と誇りを持ち、豊かな心で、課題を見いだし解決する力をはぐくむ教育」と「学びでつながり、絆を結び、すべての世代のひとが健康でいきいきとかがやく教育」を、めざす教育の二つの姿としています。

これらの基本的な考えのもと、基本目標1 確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）、基本目標2 教育環境の整備充実、基本目標3 文化の継承と創造、基本目標4 地域に根ざした特色ある学校の創造、基本目標5 生涯にわたり学び続ける環境づくり、基本目標6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進、として6つの基本目標を設定して教育施策を推進しています。そして、これらの基本目標を具体化するための施策が、36項目設定されています。

白山市教育振興基本計画に掲げられている「点検・評価及び目標」の各事業に従い、ヒアリングを通して評者が受けとめた各担当課の姿勢等を加えながら以下意見を述べることにいたします。

注釈：基本施策や点検評価項目ごとの所見は後半に掲載

2 総評

1 事業別点検・評価シートについて

平成30年6月15日、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた優れた取組を提案した自治体として、白山市が「SDGs 未来都市」に選定されました。このたびの点検・評価シートに、SDGsの視点を盛り込んだことは歓迎すべきことと存じます。

もちろん盛り込んで良しでは無く、当該事業又は施策の推進がSDGsの目標の実現や具現化にいかに関わっているのかに立脚して事業が推進されなければ、画餅に帰してしまいます。

さて、このたびは、30の事業について評者としての意見を述べさせていただきました。特にシート後段の事業の評価欄において、有効性に係る評価、S 期待を

大きく上回る事業が1件、A 期待を上回るとして自己評価された事業が4件、B 概ね期待どおりとされた事業が25事業であり、白山市教育振興基本計画の基本目標に基づき、各事業が適正に執行されていきました。ただし、評者は、自己点検にあたっての評価区分の「有効性（達成度）」「必要性」「効率性」「公平性」の4区分が相応しいのか否かについての明確な意見を現在のところ持ち合わせてはおりませんが、少なくとも行政側としては、有効と判断しているから実施するのであり、必要だから予算要求し実施するのではないかと思われまます。

本年、2023（令和5）年は、次期の「白山市教育振興基本計画」の策定に向けた見直しの年であることに鑑み、現在のような点検・評価対象事業を定まった様式の1シートに記載するという方法を大胆に改めてはいかがでしょうか。

2 自己点検・評価活動について

令和4年度の白山市教育委員会の「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」を拝見し、改めて、限られた予算をどの事業に何のために配分し、どのような成果が得られる可能性があるか、という自己分析、また事業遂行上、改善や見直しの方向についても真摯に向き合おうとする行政意思を感じ取りました。

自己点検・自己評価は、地域住民に対する説明責任を果たすことであるとともに、評価結果を新たな施策の推進に活かし、その利益を児童生徒はもちろんのこと地域住民が享受できるような仕組みづくりに向けたものであることを切に願うものです。

その意味において、評者としましては、評価欄の記載にあたり、評価対象年の事業だけではなく、今後の方向性の記載のように、次年度の取組みについて記述していただいていることは、事業の流れと見通しをイメージすることができます。

白山市教育委員会の教育に関する事業の執行に係る点検評価報告書は、従前からほぼこのたびのような章立て、項目立てで展開されておりますが、国や県の教育施策の動向を見ながら、点検項目の並び替え、新設の項目、スタイルや書きぶりの見直しに着手しても良いように思いますし、項目によっては成果や今後の方向性の表記のボリュームを増やしても良いかもしれません。

周知のとおり、教育委員会は、地方自治法はもとより、地方教育行政の組織及び運営に関する法律上、およそ教育全般にわたる職務権限を有する行政委員会であり、定例会や臨時会において決すべき議案も多岐にわたっています。当然に事業の実施には、予算措置が必要ではありますが、周知のとおり、行政は、地方自治法第2条第14項の規定のように「最少の経費で最大の効果」を挙げることのできるようなメリハリのきいた事業展開を自明のこととしなければなりません。

ところで、文部科学大臣は、令和4年2月、国の第4期教育振興基本計画の策定について、中央教育審議会へ諮問しました。その諮問文には、「私たちが目指す超スマート社会（Society 5.0）は、一人一人の人間が中心となる社会であり、こういった社会において求められる力として、経済協力開発機構（OECD）では2030年を見据えて、子供たちが自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を

実現していく力を発揮しながら、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動を取る力という「変革を起こすコンピテンシー」を身に付けていくことを提言している」との記述が見受けられます。この「コンピテンシー（能力）」とは単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む 様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求（課題）に対応することができる力のことであり、こうした力は、児童生徒に限らず、我々大人にも求められるものではないでしょうか。

ただ、教育事業には、効率だけでは判断し得ない面があること、一朝一夕に成果が表出するものでは必ずしもないことを首肯しなければなりません。当然のことながら教育という営みは長きにわたるものでありますが、自己点検という作業は、児童生徒及び地域住民の教育や学びの改善や振興のありように活かすという使命と表裏一体のものと評者は認識しています。自らの自己点検・評価を「意味ある点検・評価」としていただきたく存じます。

教育施策のありようが、ひとを育て、地域創生に大きくかかわっているということを再認識しながら、今後とも教育に関する事務の適切な管理及び執行を旨とし、白山市の全体的な教育活動のさらなる活性化、まちとしての白山市の魅力の掘り起こしや発信に資するような教育事業の展開に努められますようお願い評価を終えての言葉といたします。

3 職員体制・会計年度任用職員制度について

2020年4月、会計年度任用職員制度がスタートしました。多くの自治体で働く非正規公務労働者の勤務や待遇を「改善」するためのものであったはずでした。総務省の「会計年度任用職員制度の適正な運用等について（通知）」（2022（令和4）年12月23日総行公第151号）において、給与決定にあたっては、「職務の内容や責任、職務遂行上必要となる知識、技術及び職務経験等を考慮するとともに、・・・地域の実情等を踏まえ、適切に決定する必要がある」としていますが、社会教育分野での質の高いサービスを地域住民に恒常的に提供するためにも、雇用の安定化は不可欠です。それが学校教育、社会教育職員の本来業務なのか否かを問わず、職員が携わる、遂行している（遂行せざるを得ない？）用務、期待されているプランナー、アドバイザー、コーディネーター、ファシリテーター、ブリッジビルダー（橋渡し役）のような「顔」に応えようと日々努めているヒトとしての職員がこれまでの歩みの中で形成してきた専門性を活かしていただく上でも、限りなく「単年度雇用」の職員として、不安定な処遇のもとに置いておくことは決して望ましいこととは思われません。

2008年の社会教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議（衆議院）では、「社会教育主事、司書及び学芸員については、多様化、高度化する国民の学習ニーズ等に十分対応できるよう、今後とも、それぞれの分野における専門的能力・知識等の習得について十分配慮すること。また、各資格取得者の能力が生涯学習・社会教育の分野において、最大限有効に活用されるよう、資格取得のための教育システムの改善、有資格者の雇用確保など、有資格者の活用方策について検討を進め

ること」が盛り込まれていましたが、会計年度職員制度に対しては、ひとり白山市だけの検討課題でないことは承知しているつもりですが、評者からすれば、矛盾を抱えた制度のように思われてなりません。

折しも、国は、第4期教育振興基本計画の中で、ウェルビーイングの考えを示しておりますが、学習事業、教育事業に使命感・責任感を持って従事している専門的な職員の、ヒトとしてのウェルビーイングの確保についてもしっかり検討しなければいけないのではないのでしょうか。

令和 4 年度
白山市教育委員会

教育行政の基本目標及び基本施策

令和4年度 教育行政の基本目標及び基本施策

基本方針

白山市教育委員会は、平成26年度からの10か年計画として「白山市教育振興基本計画」を策定し、基本理念「ふるさと白山の 未来を拓く ひとを育てる～地域とともに～【学びでつながる白山のひとづくりプラン】」を実行していくための6つの基本目標を掲げました。また、令和元年度に中間期を迎えたことから、本市の目標とすべき姿と方向性を改めて定めた、「白山市教育振興基本計画（改定版2019-2023）」を策定しました。

併せて、「白山市教育大綱」については、SDGs（持続可能な開発目標）の理念に沿った環境教育を追加するなど、基本計画と連動させた大綱を令和2年2月に決めました。

教育の現場においては、いじめの社会問題化、加速度的に進展する社会のデジタル化への対応など様々な課題に直面しています。こうした中、多様化する課題に対し、主体的に取り組み、柔軟に対応できる力をはぐくむことが重要となります。白山市では、次代を担う人材を育成する上で、ふるさとに誇りと愛着を持つための教育を大切な要素の一つと考え、本市の個性である豊かな自然環境や地域資源を最大限に活用し、五感を使って自然と触れ合うことにより、心豊かで地域社会に貢献できる人材の育成に取り組むこととしています。本年10月には、本市で「日本ジオパーク全国大会」の開催を予定しており、研究・発表を通じて積極的に参画します。

今後とも、教育を取り巻く環境変化を踏まえ、基本計画や教育大綱に基づき、未来を担う子どもや若者たちが、白山市を愛し、多様な個性や能力を伸ばしながら、感性豊かな自立した人として成長できるよう学校教育の充実を推進するとともに、積極的な自然体験の導入や先達が築いた歴史や伝統文化等を身近に学べる環境の充実を図り、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を推進します。

～～～～～ 白山市教育振興基本計画（改定版）の概要 ～～～～～

基本理念

ふるさと白山の 未来を拓く ひとを育てる ～地域とともに～ 【学びでつながる白山のひとづくりプラン】

白山市は、「白山市らしさ」を生かしながら、人とのつながり、地域とのつながり、自然や歴史・文化とのつながりの中で、明るい未来を拓く教育を創造していきます。

- 「ふるさと白山」で学ぶことを通して、ふるさとに誇りと愛着を持つ、心豊かで感性あふれる人の育成をめざします。
- 人と人とのつながりのうえに、様々な学びや経験・体験を通して、「未来を拓く」人づくりをめざします。
- わたしたちは「地域とともに」教育づくりを通じて、生き生きと成長していきます。
- わたしたち一人ひとりが恵まれた自然や先達が紡いだ歴史と文化を享受し、活力と思いやりあふれるふるさと白山づくり、絆づくりをめざします。
- わたしたち一人ひとりが目標や課題を考え、取り組んでいこうと努力する学びの姿勢を大切にします。

施策体制

基本理念	めざす教育	基本目標	基本施策
<p>【学びでつながる白山のひとづくりプラン】</p> <p>ふるさと白山の 未来を拓く ひとを育てる く地域とともにく</p>	<p>ふるさとへの愛着と誇りを持ち、豊かな心で、課題を見いだし解決する力をはぐくむ教育</p>	<p>1 確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）</p>	(1) 学力・学習の基盤づくりの充実（SDG sの推進）
			(2) 活用力（思考力・判断力・表現力）を高める授業づくりの充実（SDG sの推進）
			(3) 情操豊かで互いに思いやる心の育成（SDG sの推進）
			(4) 運動に親しみ、笑顔あふれる元気な児童生徒の育成（SDG sの推進）
			(5) いじめ・不登校等への対策（SDG sの推進）
			(6) 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の充実（SDG sの推進）
			(7) 外国語教育・国際理解教育の充実（SDG sの推進）
			(8) キャリア教育の推進（SDG sの推進）
			(9) 障害のある子どもに開かれた教育の充実（SDG sの推進）
			(10) 学校保健の充実・食育の推進（SDG sの推進）
			(11) 幼児教育の充実（SDG sの推進）
			(12) 教職員の資質・能力の向上
	<p>2 教育環境の整備充実</p>	(1) 安全で快適な教育環境の整備（SDG sの推進）	
		(2) 安全教育の推進（SDG sの推進）	
		(3) 学校ICT化の推進（SDG sの推進）	
		(4) 就学支援の充実（SDG sの推進）	
	<p>3 文化の継承と創造</p>	(1) 優れた文化芸術の提供と文化芸術団体への支援	
		(2) 郷土の先達の顕彰と歴史文化の発信によるふるさと意識の高揚（SDG sの推進）	
		(3) 文化施設の充実と活性化	
		(4) 文化財を通じた学びのための保存・継承（SDG sの推進）	
		(5) 文化財の公開・活用による学びの推進	
	<p>4 地域に根ざした特色ある学校の創造</p>	(1) 白山手取川ジオパーク・白山ユネスコエコパークについて理解を深める体験活動の充実（SDG sの推進）	
		(2) 学校評価等を生かした学校づくりの充実	
		(3) 学校図書館教育の充実（SDG sの推進）	
<p>5 生涯にわたり学び続ける環境づくり</p>	(1) 笑顔かがやく生涯学習の推進（SDG sの推進）		
	(2) 元気あふれる人・地域づくり		
	(3) 子どもの権利の保障		
	(4) 健康で豊かな心の育成（SDG sの推進）		
	(5) 市立図書館の充実と機能強化		
	(6) 学校図書館支援センターの機能強化（SDG sの推進）		
	(7) 障害者の学びへの支援（SDG sの推進）		
<p>6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進</p>	(1) 生涯スポーツの充実		
	(2) 学校体育・スポーツの充実（SDG sの推進）		
	(3) 競技スポーツの振興		
	(4) スポーツ施設の整備・充実		
	(5) スポーツ活動における安全確保		
<p>学びでつながり、絆を結び、すべての世代のひとが健康でいきいきとかがやく教育</p>			

※文化振興については平成26年度から、文化財の保護及びスポーツについては令和元年度から、それぞれ市長部局に事務移管されました。

令和 4 年度白山市教育委員会

教育行政の基本目標別

事務事業点検評価項目一覧

点検評価項目一覧

	事業名	所管 (R4当時)	備考
1 確かな学力の形成と豊かな心の育成 (感性のびのび教育の推進)			
1	家庭教育充実事業	学校指導課	
2	いしかわ道德教育推進校指定事業	学校指導課	
3	部活動指導員配置事業	学校指導課	
4	教育相談事業	教育センター	
5	少人数教育推進事業	学校指導課	
6	外国語指導助手配置事業	学校指導課	
7	職場体験事業	学校指導課	R4実施なし
8	特別支援教育事業の推進	学校指導課	
9	地元産食材使用推進事業	学校教育課	
10	教職員研修事業	教育センター	
2 教育環境の整備充実			
11	小中学校施設整備事業	教育総務課	
12	通学路合同点検事業	学校教育課	
13	児童生徒就学支援事業	学校教育課	
3 文化の継承と創造			
14	松任中川一政記念美術館管理運営事業	松任松任中川一政記念美術館	
15	博物館管理運営事業	市立博物館	
4 地域に根ざした特色ある学校の創造			
16	感性のびのび俳句大会の実施	学校指導課	
17	SDGs・白山手取川ジオパーク研究事業	学校指導課	R4新規
18	学校図書館充実事業	学校指導課	
5 生涯にわたり学び続ける環境づくり			
19	生涯学習施設等活用推進事業	生涯学習課	
20	生涯学習のまちづくり推進事業	生涯学習課	
21	公民館活動推進事業	生涯学習課	
22	子どもの権利条例啓発事業	生涯学習課	
23	子どもに関する相談事業	子ども総合相談室	
24	青少年育成事業	生涯学習課	
25	図書館管理運営事業	松任図書館図書サービス課	
26	学校図書館支援センター推進事業	松任図書館図書サービス課	
27	公民館施設整備事業	生涯学習課	
6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進			
28	地域スポーツ推進事業	スポーツ課	
29	スポーツ振興総務事業	スポーツ課	
30	スポーツ大会開催事業	スポーツ課	R4実施なし
31	スポーツ大会開催補助事業	スポーツ課	R4実施なし
32	ジュニア競技力向上育成事業	スポーツ課	
33	学校開放推進事業	スポーツ課	

令和4年度白山市教育委員会 教育行政の基本目標別 事務事業点検評価一覧

基本目標 1 確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
1	家庭教育充実事業	市内小中学校に「白山っ子の成長のために」を提供することで、保護者に望ましい生活習慣と家庭学習習慣について周知する。各学校は家庭学習の手引きを作成し配布する。	B	全保護者に望ましい生活習慣と家庭学習習慣の維持を伝えるために、リーフレットの周知を各学校に呼びかけた。各学校では、家庭学習の手引きを作成する取組等を行った。家庭学習習慣の定着化も見られるようになってきた。
2	いしかわ道徳教育推進校指定事業	市教育委員会は、域内の道徳教育推進校を指定し、道徳教育の推進、道徳科の指導の充実、道徳科の評価に取り組む	B	推進校を中心に「考え、議論する道徳」の授業を具現化するための教材提示や板書、発問、交流等の授業研究を推進し、道徳的価値について主体的に考え、自分の言葉で語り合う児童生徒が増加した。
3	部活動指導員配置事業	競技経験や指導経験が少なく専門性を有していない教諭等が顧問となっている部活動において指導技能を有する外部指導者を配置する。	B	競技経験や指導経験が少ない教諭が顧問でも、指導等を行うことができている。教員の時間外勤務時間の削減につながった。中学校と地域指導者の交流範囲が広がり、地域との連携に寄与している。
4	教育相談事業	センター指導員、指導主事、SSW、臨床心理士、学校派遣相談員による相談 教育支援センター「ふれあい教室」の運営	B	児童生徒及び保護者・教職員からの不登校・いじめ・問題行動等の教育相談に対応し、必要に応じて学校や他機関等と連携を密に行い、支援を行っている。
5	少人数教育推進事業	市内全小学校1年生は30人以下の学級で授業を受けることができるように、市独自で講師を採用し、各学級に配置する。また、複式学級が2学級以上の場合、市独自の講師を配置し、全ての複式学級を解消する。	A	複式授業における教員の負担を減らし、児童一人一人への手厚い指導を行うことが出来、白山ろくにおける複式解消の効果が大きい。また、市内全小学校で1年生は30人学級の実施により、担任が一人一人を丁寧に指導する時間の確保ができてきている。このことから、国が進める個別最適化に効果があったと考える。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
「白山っ子の成長のために」の配布を学校への周知に変更（予算0円）し、今後は各学校で地域にあったものを公表していく。	「白山っ子の成長のために」の配布を学校への周知とし、市のHPに掲載していく。今後は各学校で地域にあったものを公表していく。今後は、生涯学習課の進める家庭教育事業にシフトすることも検討課題である。	学校指導課	学力・学習の基盤づくりの充実
「考え、議論する道徳」へと授業の質的転換を図るとともに、教科書や地域教材の効果的な活用及び家庭・地域社会との連携による心に響く授業等の取組を周知し、推進した。	ねらいとする道徳的価値について、考え、議論する道徳授業の推進のため、全体計画、全体計画別業、年間指導計画等の活用、また、道徳だより等の活用、保護者や地域と連携した道徳教育の推進について各校に指導していく。	学校指導課	情操豊かで互いに思いやる心の育成
生徒にとって望ましい部活動環境の構築の観点から、地域活動者との連携を図り適切な指導の下、成長期の健康管理に配慮した部活動を実施した。	国は、令和4年12月に公表した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」において、中学校では部活動指導員や外部指導者を確保し、可能なものから地域クラブ活動へ移行するよう示している。今後は、この取組を関係者と協議し、今後の部活動の在り方を構築する。	学校指導課	運動に親しみ、笑顔あふれる元気な児童生徒の育成
児童生徒・保護者の相談に臨床心理士による専門的見地からの面談を行うことができた。必要に応じて学校や福祉・医療などの関係機関と連携し、適切な支援が受けられるようにした。	学校や子ども総合相談室、発達相談センターなどの関係機関との連携をより一層推進していきたい。	教育センター	いじめ・不登校等への対策
少人数学級、複式授業解消のニーズはあるが、講師の確保が、近年難しい状況が続いているため、事業の拡大は難しい状況である。	国・県の学級編成基準の動向に注意しながら、引き続き本事業を継続していく。	学校指導課	一人ひとりに応じたきめ細かな教育の充実

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
6	外国語指導助手配置事業	外国語指導助手や地域講師を小中学校の外国語活動や外国語（英語）科の授業のために配置する。	B	市内小中学生が授業でのやりとりを通して、外国語指導助手と直接、英語で話したり聞いたりする機会を得て、外国語学習への意欲を高めることができた。また、外国語指導助手が出身国の文化を紹介することにより、異文化理解を具体的に深める機会を確保できた。
7	職場体験事業	生徒の将来的勤労への興味を引き出すため、生徒が地域の様々な職場で勤労を実体験することで、勤労観・職業観の醸成を図る。	—	※新型コロナウイルス感染症対策のためR4実施せず
8	特別支援教育事業の推進	特別支援教育支援員の配置・特別支援教育アドバイザーの配置・特別支援教育支援員研修・通級指導教室担当者研修の開催	B	・支援員が1名増員となり、発達障害のある児童生徒の対応に有効に機能したが、ニーズは一層高まっているため、更なる増員が求められる。 ・「白山市版個別の教育支援計画」等の活用が浸透してきており、学校現場におけるよりの確な児童生徒への支援が行われるようになってきた。
9	地元産食材使用推進事業	給食用食材として地元産を積極的に利用する。	B	地産地消課と連携し、地域の農家や法人の協力を得ながら、全小中学校で、地元産食材による給食を提供することができた。
10	教職員研修事業	・基本研修→教職員研修（授業づくり研修・学級づくり研修・初任者研修・発達障害の理解研修・GIGA端末活用） ・指定研修→担当者研修（主任等研修、特別支援教育支援員研修、通級指導教室担当者研修）	B	確かな学力を育む授業づくり研修及び学びを支える学習基盤である学級づくり研修を中心として行ったことにより、学校訪問において教職員の指導力の向上がみられるなどの成果が得られている。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
JETプログラムALTと地域講師による小・中学校の授業への配置により、児童生徒が英語で聞いたり話したりする機会を確保することができた。加えて、学校の要請に応じ、国際交流の授業等にも参加し、外国の文化理解を促進できた。反面、打合せの時間の確保が難しく課題となっている。	児童生徒の英語への関心意欲を高めるとともに、外国語指導助手の指導力向上及び外国語指導助手の更なる効果的な活用のために、研修会を開催したり、指導に係る相談体制を整えたりしていきたい。また、少人数教室等の導入によるクラスの増加に合わせた適正な配置を進めるとともに、より授業の質を向上させるために、地域講師等の更なる任用についても検討することが必要。	学校指導課	外国語教育・国際理解教育の充実
		学校指導課	キャリア教育の推進
通級指導担当者や支援員の年2回の研修により、専門性を高めたり、情報交換をしたりすることで、現場での個々の特性に応じた支援に生かされている。また、特別支援教育アドバイザーの配置により、増加傾向にある就学相談業務の負担軽減を図り、学校の困り感に応じた相談・助言を行うことができた。	R5年度は、特別支援教育アドバイザーを1名増員し、就学相談業務のより一層の効率化を図る。また、アドバイザーの学校訪問や校内研修会等への参加機会を増やすことで、きめ細やかに学校現場のニーズに応じた助言・支援ができるようにしていく。全体を通しては、関係課との連携を一層密にし、障害のある児童生徒への早期の支援を実施していく。	学校指導課	障害のある子どもに開かれた教育の充実
市内小中学校において地域の農家から地元産食材の提供を受けているが、特に蕪城小学校では食材の納品だけでなく、児童が農家の農園で栽培体験を行うなど様々な活動を行うことができ、児童たちにとって地元産食材がより身近なものとして感じられるようになった。	R5年度は地元産1等米のほかに特別栽培米を使用する。今後も引き続き地元産食材の使用を推進していく。	学校教育課	学校保健の充実・食育の推進
新学習指導要領改訂に伴う教科指導として、体育・保健体育科の研修を実施して完了した。年度当初に実施する必要がある研修については、オンライン研修で行い、参加しやすい体制をつくった。	ユニバーサルデザインの学級経営の研修、GIGA端末活用研修、発達障害に対する支援の方法や理解を深める研修が今後も必要である。	教育センター	教職員の資質・能力の向上

令和4年度白山市教育委員会 教育行政の基本目標別 事務事業点検評価一覧

基本目標 2 教育環境の整備充実

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
11	小中学校施設整備事業	<p>【大規模改造】松任小学校（実施設計）、東明小学校（校舎等）、北星中学校（実施設計）、鶴来中学校（校舎及び体育館等）、鳥越中学校（校舎等）</p> <p>【修繕等】蝶屋小空調設備更新・ガスバルク更新、松陽小高圧受電設備改修、白嶺小雪囲い改修、松任中プール改修、笠間中自転車置場設置、北辰中下水管改修ほか</p>	B	全ての学校において改築又は大規模改造工事が完了しており、大規模改造や長寿命化改良工事に併せてバリアフリー化や環境に配慮した設備の更新等に取り組むなど、質の高い教育環境の実現を図っている。
12	通学路合同点検事業	通学路安全推進会議を組織し、通学路の危険箇所のリストアップや、道路管理者、警察等との合同点検の実施により、危険情報を共有している。	A	市PTA連合会の協力を得て危険箇所をリストアップし、通学路安全推進会議を通じて情報共有をし、関係機関による合同点検・対策を実施することで、これまで以上に改善につなげることができた。
13	児童生徒就学支援事業	学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費のほか、新入学児童生徒の学用品費等の一部に対して、援助費を給付する。所得による制限あり。通学距離が長い児童生徒には通学に利用するバス利用料金等の費用の実費又は半額相当額の補助金を交付する。	B	就学援助について、援助費を3回に分けて分割支給することで、家計に大きな負担を及ぼさないようにした。通学補助については、通学距離が長いことで路線バス等の費用に対し、補助金を交付することで、経済的負担を軽減させ、通学距離が長いことに対する保護者の不公平感を緩和させることができた。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
<p>鶴来中及び鳥越中における大規模改造を予定どおり完了。断熱防水や多目的トイレの設置、LED化などの機能向上を併せて実施。改修事業では、予め予定していた白嶺小中学校の雪囲いや松任中のプールのほか、複数個所の空調設備等の緊急修繕にも適切に対応することができた。</p>	<p>東明小の長寿命化改良はⅢ期に入っており、令和5年度に完了予定。新たに松任小及び北星中の長寿命化改良に着手する。湊小におけるエアコンの更新や白峰小のプールサイド改修等を行うほか、引き続き学校施設における環境改善（トイレの洋式化等）を進める。</p>	教育総務課	安全で快適な教育環境の整備
<p>本市の通学路点検は、点検数が県内トップであり、対応数の割合を増加させていくことで、安全な通学環境の確保を推進できると考える。今後は更なる事務の効率化を図っていきたい。</p>	<p>通学路の危険個所の年度当初のリストアップについて、リスト作成を始める時期には市PTA連合会は新役員となっており、前任から引継ぎを受けながらの作成となるなど、非効率な部分があった（4月ごろからリスト作成→6月末完成）。このことから、今年度は役員が交代する前にリストアップを完了させることとする（3月末完成）。また今後は、地域の子ども見守り隊の声も活かし、通学路の安全を推進していきたい。</p>	学校教育課	安全教育の推進
<p>申請もれがないように全児童生徒の保護者に通知を出し、広報、ホームページでも周知している。 交通機関の運行路線、ダイヤ等の影響を受けるので、関係団体との連絡調整が必要となる。</p>	<p>効率性を高めるために、本市の電子申請サービスの利用を検討する。 申請もれがある保護者に対し、申請書の提出を促す。</p>	学校教育課	就学支援の充実

令和4年度白山市教育委員会 教育行政の基本目標別 事務事業点検評価一覧

基本目標 3 文化の継承と創造

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
14	松任中川一政記念美術館 管理運営事業	施設管理及び収蔵資料の保存・研究、公開並びに教育・普及事業の実施。 ・施設管理事業(施設管理及び修繕、資料管理及び修復等) ・施設改修事業(建物及び設備改修) ・施設運営事業(企画展及び児童生徒対象公募展の開催、講座・イベント等の開催、物品制作及び販売、資料調査及び収集、館報発行等)	B	博物館法にのっとり資料の保全と公開及び普及活動という美術館の役割を遂行し市民に優れた芸術を享受する機会を提供している。令和4年度の同法改正(R5.4.1施行)に対応し、資料のデジタル・アーカイブ化や他館等との連携にも取り組んだ。
15	博物館管理運営事業	施設管理及び収蔵資料の保存・研究、公開並びに教育・普及事業の実施。 ・施設管理事業(施設管理及び修繕、資料管理及び修復等) ・施設改修事業(建物及び設備改修) ・施設運営事業(企画展・特別展の開催、収蔵品を活用した小学生対象博学連携事業の開催、講座・イベント等の開催、資料調査及び収集、館報発行等)	B	コロナ禍であったが、入場者数の制限緩和等の措置もあり、臨時休館もなく各種イベントや講座を実施した結果、入館者数は増加した。 排気ファン取替工事等必要な修繕を行い、適正な施設管理を実施した。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
<p>公募展事業については、応募数の低迷が課題であったため、学校指導課及び市学校教育研究会図工美術部会と協議し、募集テーマを柔軟にするなど要項を改定し市内小・中学校に再度協力を依頼した。</p>	<p>公募展事業については、募集期間の延長など更に応募しやすい環境を整え、学校での取組を呼び掛ける。今後も貴重な芸術作品を継承し、市民のために活用すると共に、文化観光施設としてのニーズに応える運営を行う。同時に、施設の魅力アップ及び機能向上のため増築改修計画を進める。</p>	<p>松任中川一政記念美術館</p>	<p>文化施設の充実と活性化</p>
<p>施設管理では2F常設展示排気ファン取替や空調機用ダンパーや加湿器給排水電磁弁の取替等予定通り完了。ホームページや白山市公式LINE等を積極的に活用して事業開催等の情報を広く発信し入館者増に繋げた。</p>	<p>施設本体が建設から30余年経過しており長寿命化計画による施設の改修を順次行っていく。博物館法の一部改正もあり、博物館の運営も地域の文化の特色を生かし、地域の活性化を図るため、学芸員の拡充をすることによって、常設展示の内容の充実を図り、市の歴史の継続や保存に努めていく。企画展で小学生対象の博学連携事業の充実等地域の活力の向上に取組む。</p>	<p>市立博物館</p>	

令和4年度白山市教育委員会 教育行政の基本目標別 事務事業点検評価一覧

基本目標 4 地域に根ざした特色ある学校の創造

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
16	感性のびのび俳句大会の実施	地域の学習資源や人材を活用し、地域と学校が一体となって地域に根差した学習活動を推進する。	B	本大会は、令和4年度で15回目であり、いしかわ教育ウイークに全市内小中学校28校で一斉に実施することができた。一人一句創作した俳句の中から、優れた作品を選び、表彰式を行うこともできた。
17	SDGs・白山手取川ジオパーク研究事業	白山手取川ジオパークの地域の魅力や地域の成り立ちの研究を市内全小中学校で実施する。	B	日本ジオパーク全国大会の開催に伴い、参加校を中心に、各学校におけるジオパーク学習が充実してきた。
18	学校図書館充実事業	全学校に配置している学校司書を活用し、児童生徒・教職員に対する読書相談や図書の紹介の作成、学習と関連させた図書の配置、蔵書のデータベース化等、学校図書館環境の充実に努める。	B	教育界は、GIGAスクール構想や情報化の進展など、新たな段階を迎えているが、本市独自の取組を進めてきた図書館教育の充実は本市の強みとなっており、児童生徒に豊かな心をや感性を育み、学力を支える基礎の力にもつながっている。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
俳句づくりに親しむ学習活動を推進していくため、地域の学習資源や人材を活用していく必要がある。	引き続き、いしかわ教育ウイークに市内小中学校28校で一斉に実施し、市俳句協会へ審査を依頼し、一人一句創作した俳句の中から優れた作品を選び、「俳句大会特選入賞者表彰式」を行う。	学校指導課	白山手取川ジオパーク・白山ユネスコパークについて理解を深める体験活動の充実
各学校が、総合的な学習の時間や教科の学習の中で、SDGs 白山手取川ジオパーク推進事業の取組を位置づけ、計画的・継続的な取組になるように工夫している。	より一層の事業内容の充実が図られるよう、各学校の特色ある教育課程の編成の中に位置づけられるよう、働きかけていく。また、世界認定を受けて、取組の継続が図られるよう推進していく。	学校指導課	
大きな環境変化（読書・情報教育・探求型調べ学習・情報端末との併用・電子書籍対応など）が起きている中、更に学校での図書館教育を充実させ、児童生徒の豊かな感性や確かな学力につながる取組の充実を図ることができた。	学校図書館教育の役割の多様化に向けて、学校司書が時代に対応した見識を身に付け深めていくこと、スキルアップ、学校教員との連携の在り方などについて、研修会などを充実させることで今後更に検討を進めていく必要がある。	学校指導課	学校図書館教育の充実

令和4年度白山市教育委員会 教育行政の基本目標別 事務事業点検評価一覧

基本目標 5 生涯にわたり学び続ける環境づくり

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
19	生涯学習施設等活用推進事業	指定管理施設である松任文化会館ピーノ、美川文化会館アクア、鶴来総合文化会館クレイン、松任学習センターブララの4施設の利用促進のために、それぞれの指定管理先の工夫による自主事業等の実施も交えながら、ホールや研修室等、各施設が利用しやすい環境を整え、生涯学習施設の活用の推進を図る。	B	指定管理者が実施する自主事業等も含め、利用増につながる工夫がなされてきた結果、ホール・会議室等ともに利用件数が増えており、それに伴い利用者も伸びてきている。
20	生涯学習のまちづくり推進事業	各地区の特色を生かす公民館事業以外においても生涯学習事業の実施を進め、市民の学習の機会を増やしていく。市内の資源を主に学ぶ「はくさん学び舎講座」では講義と現地学習を組み合わせた複数回の学習機会を設け、学習内容に深みをもたせている。多くの市民が集う「生涯学習のつどい」では、現在市民の関心が高い地域づくりをテーマとした講演を設け、今後のまちづくりに繋げる内容としている。	B	生涯学習事業のうち「学び舎講座」では参加者が振り返りの記録を作成する機会を設け、さらに、学習内容の共有を図り、他にも広められるような内容にしている。
21	公民館活動推進事業	28公民館への来館による利用促進と公民館が実施する「公民館活性化事業」など地域の特色を生かした事業への参加促進により、公民館を核とした地区活性化を進め、幅広い世代を対象とした住民の学びの気運を高めていく。また、活性化事業以外の事業においても各館の工夫により多彩な事業を企画・実施し公民館利用に繋げる。	B	28公民館それぞれの毎年の工夫により、中心となる事業が増え、それに伴い事業参加者や公民館利用者も増えている。
22	子どもの権利条例啓発事業	子どもが持つ固有の権利を意識することで子どもも大人もすべての人が幸福に生活できるまちを目指すための条例の啓発を続ける。条例に基づく市の施策の推進状況や保障状況を審議し提言する第三者機関としての「子どもの権利委員会」の開催や、子どもの意見表明の一環として実施している「子ども会議」の開催等を通して、子どもの視点による施策を推進していく。	A	子ども会議を開催し子どもの意見表明の一機会としている。子どもの意見が施策に反映された事案などを学校や市広報を通してお知らせすることで、「子どもの権利」を身近に感じやすくしている。地域づくり活動の一助として、子どもの意見を取り入れる機会を設ける地域が出てきている。
23	子どもに関する相談事業	電話、メール、面接、訪問による相談対応。 多機関連携によりケース検討会の開催。 子どもに関わる職員研修会の開催。子育て講座、虐待防止講座の開催。 市内全小中学校・幼稚園・保育所(園)・児童館(センター)・放課後児童クラブ等を巡回訪問し、情報共有と連携を図り虐待予防に繋げる。	A	虐待相談について、87人/136人終了した。 ケース会対応連携先の増加 R3 299か所→ R4 406か所 【新規】子ども向け虐待予防ミニ講座開催による啓発

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
<p>指定管理者主催の自主事業や貸館業務のための呼び込み等、工夫により利用者は増加し生涯学習の機会の確保がなされてきている一方で、施設設備の老朽化に対応し順次修繕や改修をしながら活用していく必要がある。</p>	<p>指定管理者による自主事業の内容の工夫や実施回数を増やすよう促し、施設の認知度を上げながら利用増に努める。各施設において社会教育の特色を生かすことができるように、専門性も求めていく。</p>	生涯学習課	笑顔かがやく生涯学習の推進
<p>より多くの市民に生涯学習への参加を促し、一人ひとりの参加意欲が保たれる内容を目指す。また、学習者自身が周囲に広められるよう学習拡大の工夫を行う。そのような取組も含め、生涯学習活動の一層の推進を図る。</p>	<p>これまでも地域をテーマとした学習機会を設けているが、ユネスコ世界ジオパークの認定を機に、講座では「ジオパーク学習」を意識した内容を推進し、市内各地域の魅力を学ぶ機会を増やしていく。</p>	生涯学習課	
<p>事業及び利用者の固定化に陥らないように社会の潮流を鑑みながら、また、住民ニーズを常に把握しながら事業を進めていく必要がある。</p>	<p>コミュニティセンター化を機に、これまで利用が少ない若者世代など、多様な人々が集う施設となるよう事業内容を工夫し、地域づくり活動に取り組む。また、長期的な視点から、社会教育の推進を図り、事業内容の把握や指導、職員への研修を行う。特に、公民館職員の社会教育士資格の取得について、これまで以上に積極的に促していく。</p>	生涯学習課	元気あふれる人・地域づくり
<p>認知度の向上だけでなく権利の内容についても理解が深まるよう啓発・普及・周知に努めていく。策定された第5次子どもの権利行動計画に基づき、市の各種事業を進めていく。</p>	<p>日常の様々な場面で「子どもの権利」に触れる機会があることを、実際の取組を紹介しながら周知していく。地域の取組においても子どもの意見や思いを取り入れる活動も見られ、さらに子どももおとなも共に地域をつくる気運を高めていく。</p>	生涯学習課	子どもの権利の保障
<p>相談の中で多数を占める虐待相談の改善。ケース会で、平均4か所以上の多機関連携で支援を行った。巡回訪問で顔の見える関係を築き、支援や見守りが必要な子どもの早期発見・早期対応に繋がった。新たに子ども向け虐待予防ミニ講座を開催した。</p>	<p>多機関（教育、福祉、医療、民間事業所）連携による支援を強化。巡回訪問事業を継続。子ども向けの虐待予防ミニ講座開催継続。子育て講座及び虐待対応講座の実施により啓発を行い、虐待防止や子どもの支援に繋げる。子どもに関わる職員（行政・教育・福祉関係機関）対象の講演会継続。職員の資質向上の為、国、県主催の研修に参加する。R6.4のこども家庭センター設置に向けて、健康福祉部関係部署との調整。</p>	子ども総合相談室	

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
24	青少年育成事業	市内の豊かな自然や多種多様の文化を生かした体験活動を進め、五感を通じた育成を進める。市内施設の利用等への補助のほか、市主催の事業においても学習活動を実施し、一過性の体験に留まらず継続的な学習活動へと繋げる工夫を加えている。また、地域のおとなとの関わりの機会を持ちながら、青少年育成につなげていく。	B	青少年育成に関わる事業に幅広く取り組み、振り返りの記録の機会を設けている事業もある。参加者がさらに学びを広める機会にもなっている。
25	図書館管理運営事業	図書館情報システム賃借料及び保守委託費、施設管理業務、図書購入費、ブックスタートパック配布、会計年度任用職員賃金、移動図書館運営事業、はくさん電子図書館事業、その他管理費	B	新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらも、入館者数は増加している。ただ、貸出点数等については微減で、横ばい状況なため、コロナ禍の影響を感じる。各々の事業については、概ね開催することができ、徐々にではあるが、来館者が戻ってきていると考えられる。
26	学校図書館支援センター推進事業	学校図書館間及び学校図書館と公共図書館間の図書資料の配送、学校図書館への支援。	S	コロナ禍による影響が続く状況であったが、司書部会等との情報共有を図り、事業の円滑な運営に努めた。また、学校図書館への貸出冊数が白山市教育振興基本計画（2019改定版）に定めた2023年度目標値14,000冊を大きく上回るなど、有効に活用されており、安定的に高い成果を保っている。
27	公民館施設整備事業	未耐震公民館の改築事業、防災倉庫建設事業、軽体育館床改修事業等のハード整備を通して、誰もが利用しやすい公民館施設としていく。誰もが使うことができ地域の拠点となることを地区住民等に周知することで、より多くの利用に繋げていく。	B	改築の公民館について防災コミュニティセンターとして災害に備える機能も追加し、生涯学習の振興及び住民の安心安全を守る施設として整備している。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
<p>年度当初における学校への周知のほか事業について開催前に周知を図り、参加者等の拡大に努めていく。</p>	<p>ユネスコ世界ジオパークの認定を機に、「ジオパーク学習」を意識した学習機会を増やし、市内各地域の魅力の掘り下げに努める。参加者がさらに周囲に学習内容を広めることができる仕組みづくりを進めていく。</p>	生涯学習課	健康で豊かな心の育成
<p>当初予定していた行事等を概ね開催したことにより、入館者も増え、改めて図書館の重要性を確認した。また、新たなサービスとして全館に公衆無線LANを整備しサービスの充実を図った。移動図書館事業については、車両が市の基準（20年、20万km）を令和7年度に迎えることから、継続に向け、新規車両購入と車両の整備による状態回復の可否を見極める必要がある。</p>	<p>コロナ禍で中止している行事を含め、利用者のニーズに合ったものを提供すべく、スクラップアンドビルドを講じながら各種事業等を進める。電子図書館では、ジオパーク世界認定を受け、関連資料をアップするなど、連携して啓発に努める。また、調べ学習コンクールの作品の一部を複製し、誰でも閲覧できるようにするなど、新たな試みにチャレンジする。更には、魅力的な期間限定型のコンテンツを常時200～400冊貸出できるよう整備し、利用者のニーズに応じていく。</p>	松任図書館 図書サービス課	市立図書館の充実と機能強化
<p>今後とも、学校図書館とのネットワーク機能を活用するとともに、資料の充実、レファレンス対応等による学校図書館への支援を継続する必要がある。ただ、この事業の根幹である配送について、請負者の高齢化など課題がある。</p>	<p>公立図書館と学校図書館を繋ぐ本市の特色ある事業で、全国の図書館関係者からの視察が相次ぐなど、関心の高い事業でもある。今後は、規則化や職員配置など組織化をすすめ、学校図書館を支援する体制の継続、堅持が必要である。</p>	松任図書館 図書サービス課	学校図書館支援センターの機能強化
<p>公民館機能の他に防災コミュニティセンターとして、防災機能を有した誰もが使いやすい施設となるよう改修等を進める必要がある。</p>	<p>順次改築等のハード面の整備を進めていく。また、多様性の観点からも幅広い世代が利用しやすく多くの人が多様な目的で訪れることができるよう時代に合わせた生涯学習の拠点を目指していく。</p>	生涯学習課	障害者の学びへの支援

令和4年度白山市教育委員会 教育行政の基本目標別 事務事業点検評価一覧

基本目標 6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
28	地域スポーツ推進事業	地区公民館への委託事業として実施している「うぐいす運動」の推進や市スポーツ協会が主体となったスポーツレクリエーション交流会等の開催 R4年度スポーツ・レクリエーション交流会 【中期】10/10・【後期】2/19 【〔前期〕中止】〔参加人数 合計355名〕 競技：ソフトバレー、カローリング、グラウンドゴルフ、体力測定、パークゴルフ、パドルテニス、ポッチャ	B	地域スポーツの推進を目的とした「うぐいす運動」や「スポーツレクリエーション交流会」は、各公民館や地域ごとに継続した取組が行われており、生涯スポーツの推進とともに、豊かな地域コミュニティの醸成に役立っている。
29	スポーツ振興総務事業	スポーツ協会、スポーツ少年団に対する各種補助事業の実施及びスポーツ振興事務 補助団体：白山市スポーツ協会、白山市スポーツ少年団	B	スポーツ大会等は、コロナ禍での開催であったが、スポーツの振興と競技力の向上を目指した各種施策の実施に市と共同で取り組んだ。
30	スポーツ大会開催事業	若獅子旗争奪中学選抜剣道白山大会、室内ジュニア水泳競技大会、各種競技大会の開催	—	※新型コロナ感染症対策のためR4実施せず
31	スポーツ大会開催補助事業	松任ロードレース及び美川一周耐寒継走大会の開催に対する補助	—	※新型コロナ感染症対策のためR4実施せず

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
<p>「うぐいす運動」と「スポレク交流会」は地区行事、地域行事として市民に定着してきたが、より幅広いニーズに応えるため、様々な年代が楽しめるよう事業内容を充実させていく必要がある。</p>	<p>事業継続によるスポーツ活動の定着と年代を問わずスポーツを楽しめるよう事業内容の見直し、または充実を図る R5年度 〔前期〕 8/20 ペタンク 〔中期〕 10/9 グラウンドゴルフ、パークゴルフ、カローリング、ソフトバレー、体力測定 〔後期〕 1/14 ビーチボールバレー、ポッチャ</p>	スポーツ課	生涯スポーツの充実
<p>近年、スポーツ少年団の加入者数が減少傾向（H29：1,824人⇒H30：1,703人⇒R元：1,648人⇒R2：1,588人⇒R3：1,727人⇒R4：1,686人）児童数減少によりチームとして成り立たなくなったため。今後も加入者を増やすことができる体制づくり、また地域スポーツのさらなる推進を図るため、若い指導者の育成も必要である。</p>	<p>加入者を増やすことができる体制づくり、また地域スポーツのさらなる推進を図るため、若い指導者の育成。 R5年度 (1)世界水泳事前合宿受入（フランスO WSチーム）（トップ選手と地元小学生との交流によるスポーツに対する関心向上を図る） (2)宝くじスポーツフェア ドリームベースボール 9/23開催予定（元プロ野球選手による野球教室や親善試合の開催）</p>	スポーツ課	
		スポーツ課	学校体育・スポーツの充実
		スポーツ課	競技スポーツの振興

No.	事業名	事業内容	達成度	
			達成度	説明・考察
32	ジュニア競技力向上育成事業	ジュニア選手の育成強化に積極的に取り組んでいる団体に対する補助金の交付 R4実績 小学生の頃から全国大会に出場している児童のより一層なる競技力向上を図ることで 令和4年度は水泳、トランポリンの選手では全国入賞する選手が育ってきている状況である	B	コロナ禍で中止となる大会もあったが、水泳やトランポリン競技などで、全国大会で優勝、入賞する多くの選手を育成している。
33	学校開放推進事業	小中学校の体育館、グラウンドの一般開放	B	市内の全小中学校で学校開放事業を行っている。利用者は天候等により増減があるが、市民の身近な地域スポーツ施設としての機能を果たしている。

担当課の自己評価		担当課	基本施策
事業の振り返り	次年度の主な取り組み		
現在は、要件を満たしている9団体に対して補助金を交付し有効な成果を得られているが、その水準の維持と競技人口の拡大が今後の課題である。	競技力向上を図るため継続して強化の推進を図る	スポーツ課	競技スポーツの振興
学校は地域住民にとって身近な施設のひとつであり、地域の実情に照らし合わせながら運営形態の見直しを進めていく必要がある。	地域住民のスポーツ活動の場の提供を継続して行っていく。	スポーツ課	スポーツ活動における安全確保

事務事業別点検・評価シート（個別シート）

基本目標 1

確かな学力の形成と

豊かな心の育成

（感性のびのび教育の推進）

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	学力・学習の基盤づくりの充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	家庭教育充実事業					開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対 象	小学校・中学校										
事業	目 標	引き続き、家庭・学校と連携しながら、児童生徒の学習習慣の確立を図る										
	事業内容	市内小中学校に「白山っ子の成長のために」を提供することで、保護者に望ましい生活習慣と家庭学習習慣について周知する。各学校は家庭学習の手引きを作成し配布する。										
概	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	154	132	0	0	R2 予算で R3 配布分を作成 R4 からデータ使用のため R3 予算は皆減					
	決算額（A）	千円	155	0	0							
	決算額のうち一般財源	千円	156	0	0							

実績と成果	区 分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 質問内容は「家で自分で計画立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合。今後も自主的に家庭学習に取り組む児童生徒の拡大を目指す。 ※令和2年度の全国学力・学習状況調査は中止。 【参考】計画上の目標値 R5年度で小学校：69% 中学校：58%	
	事業の実績	1	リーフレット配布数	枚	10,600	9,513		0
		2						
		3						
	事業の成果	1	家庭学習（小学校）	%	-	79		76
		2	家庭学習（中学校）	%	-	61		59
3								

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	全保護者に望ましい生活習慣と家庭学習習慣の維持を伝えるために、リーフレットの周知を各学校に呼びかけた。各学校では、家庭学習の手引きを作成する取組等を行った。家庭学習習慣の定着化も見られるようになってきた。 概ね期待どおり			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	引き続き、家庭教育の在り方や家庭教育に関する学習機会の充実を図るため、学校に働きかけていく。				
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	引き続き、家庭教育の在り方や学習機会の充実に向けた働きかけを行う。			
	上記等を踏まえた事業の振り返り	引き続き、家庭教育の在り方や学習機会の充実に向けた働きかけを行う。					
		これまで全児童生徒に配布してきたが、R4年度よりリーフレットのHP掲載を各学校に呼びかけを行い、今後は各学校で地域にあったものを公表していく。					
		引き続き、家庭教育の在り方や学習機会の充実に向けた働きかけを行う。					
	今後／令和5年度の主な取り組み		市内小中学校の児童生徒・保護者に対して、周知している。				
今後／令和5年度の主な取り組み		「白山っ子の成長のために」の配布を学校への周知に変更（予算0円）し、今後は各学校で地域にあったものを公表していく。 今後は、生涯学習課の進める家庭教育事業にシフトすることも検討課題である。					

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	情操豊かで互いに思いやる心の育成

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	いしかわ道徳教育推進校指定事業				開始年度	H20	実施方法	直接	国庫等・市単	国庫
	対象	小学校・中学校									
事業の概要	目標	「考え、議論する道徳」へと授業の質的転換を図るとともに、教科書や地域教材の効果的な活用並びに家庭・地域社会との連携による心に響く授業等の取組を通して、道徳教育の充実を図る。									
	事業内容	市教育委員会は、域内の道徳教育推進校を指定し、道徳教育の推進、道徳科の指導の充実、道徳科の評価に取り組む									
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項				
	最終予算額（5年度は当初）	千円	300	300	300	300	R5：湊小、R4：松南小 R3：光野中 R2：美川小（コロナ感染症対策で中止）				
	決算額（A）	千円	0	300	300						
	決算額のうち一般財源	千円	0	0	0						

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果
	事業の実績	1 道徳授業の公開	校	-	27	28	(1)事業の実績は道徳実施状況調査より (2)事業の成果は全国学力学習状況調査質問紙より 1 「自分にはよいところがある」 2 「人の役に立つ人間になりたい」 3 地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある ※R2年度はコロナ感染拡大防止のため実施なし
	2 ゲストティーチャーの活用	校	-	12	16		
	3						
事業の成果	1 自己肯定感	%	-	74	76		
	2 思いやり	%	-	95	95		
	3 社会参画	%	-	48	47		

事業の評価	区分		判定及び説明・考察			
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	推進校を中心に「考え、議論する道徳」の授業を具現化するための教材提示や板書、発問、交流等の授業研究を推進し、道徳的価値について主体的に考え、自分の言葉で語り合う児童生徒が増加した。		
必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	「考え議論する道徳」の授業を実現し、児童生徒の道徳性を高めるために、事業を継続していく。
	市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	道徳教育の充実を図る働きかけを継続していく。
公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内小中学校の推進校指定について、公平さを確保している。
	上記等を踏まえた事業の振り返り	「考え、議論する道徳」へと授業の質的転換を図るとともに、教科書や地域教材の効果的な活用及び家庭・地域社会との連携による心に響く授業等の取組を周知し、推進した。				
	今後／令和5年度 の主な取り組み	ねらいとする道徳的価値について、考え、議論する道徳授業の推進のため、全体計画、全体計画別業、年間指導計画等の活用、また、道徳だより等の活用、保護者や地域と連携した道徳教育の推進について各校に指導していく。				

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	運動に親しみ、笑顔あふれる元気な児童生徒の育成

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	部活動指導員配置事業					開始年度	H30	実施方法	直接	国庫等・市単	国庫
		対象	中学校									
事業の概要	目標	中学校部活動において部活動の活性化や競技力の向上を推進し、生徒の体力向上を図る。										
	事業内容	競技経験や指導経験が少なく専門性を有していない教諭等が顧問となっている部活動において指導技能を有する外部指導者を配置する。										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	3,990	3,371	2,698	3,034						
	決算額（A）	千円	3,086	2,591	2,740							
	決算額のうち一般財源	千円	1,077	513	801							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 部活動指導員は、県教育委員会が実施する講習会に参加し、教員に代わって教育活動としての部活動指導を行うための教養の充実を図っている。 スポーツ庁の方針に従い、地域との連携の検討に着手している。	
	事業の実績	1	配置人数	人	10	8		9
		2	指導時間	時間	1,790	1,614		1,708
		3						
	事業の成果	1	単独指導時間	時間	853	865		981
		2						
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	競技経験や指導経験が少ない教諭が顧問でも、指導等を行うことができている。教員の時間外勤務時間の削減につながった。 中学校と地域指導者の交流範囲が広がり、地域との連携に寄与している。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	競技経験や指導経験が少ない教諭が顧問となるケースが一定数あることから、適切な配置を推進する必要がある。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	国が示す中学校部活動の地域連携を進めるため、対象部活動を拡大する必要がある。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	単独指導時間を増やし、技術や知識を持った指導力の充実を進める。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	運動部の全校1名の配置を実施し、地域指導員の参加を促すことにより、学校規模による格差の是正を図っている。
	上記等を踏まえた事業の振り返り	生徒にとって望ましい部活動環境の構築の観点から、地域活動者との連携を図り適切な指導の下、成長期の健康管理に配慮した部活動を実施した。					
	今後/令和5年度 の主な取り組み	国は、令和4年12月に公表した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」において、中学校では部活動指導員や外部指導者を確保し、可能なものから地域クラブ活動へ移行するよう示している。今後は、この取組を関係者と協議し、今後の部活動の在り方を構築する。					

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	子どもたちが安心して成長できる地域に開かれた環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成(感性のびのび教育の推進)
基本施策	いじめ・不登校等への対策

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	4	事業名	教育相談事業			開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	児童生徒及びその保護者と教職員等										
	目標	教育相談に関する問題の解消										
	事業内容	センター指導員、指導主事、SSW、臨床心理士、学校派遣相談員による相談 教育支援センター「ふれあい教室」の運営										
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額(5年度は当初)	千円	50,197	49,725	51,194	50,112	令和4年度より、教育相談事業と教育カウンセラー配置事業を統合					
	決算額(A)	千円	48,517	48,517	49,687							
決算額のうち一般財源	千円	48,517	48,517	49,529								

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 センター相談件数のうち、臨床心理士による相談は、R2:426件、R3:435件、R4:452件	
	事業の実績	1	センター相談件数	件	1,337	1,636		1,456
		2	派遣相談件数	件	213	240		183
		3	ふれあい教室通室生	人	49	74		68
	事業の成果	1	臨床心理士による1年間の終結人数/実人数	%		49		32
		2	通室生の学校復帰等	人	29	35		49
3		SSWによる学校や他機関等とのケース検討会	件			69		

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性(達成度)	期待された成果は得られたか	B	児童生徒及び保護者・教職員からの不登校・いじめ・問題行動等の教育相談に対応し、必要に応じて学校や他機関等と連携を密に行い、支援を行っている。 概ね期待どおり									
	必要性	事業のニーズに変化があるか(事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	児童生徒及び保護者・教職員からの不登校・いじめ・問題行動等の教育相談の必要性はわからない。						
		市の関与を見直す余地はあるか(市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)	白山市の児童生徒の健全な育成を下支えするために、本事業は重要であり、市の関与が必要である。						
	効率性	効率性を高める余地はあるか(効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)	学校や関係機関と連携したり、専門家である臨床心理士による助言などにより支援を行っている。						
		公平性を見直す余地はあるか(事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)	相談対象者については、市内在住・市内小中学校の児童生徒及びその保護者と教職員すべてを対象としていることから、見直す余地はないものとする。						
	上記等を踏まえた事業の振り返り		児童生徒・保護者の相談に臨床心理士による専門的見地からの面談を行うことができた。必要に応じて学校や福祉・医療などの関係機関と連携し、適切な支援が受けられるようにした。										
	今後/令和5年度主な取り組み		学校や子ども総合相談室、発達相談センターなどの関係機関との連携をより一層推進していきたい。										

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	一人ひとりに応じたきめ細かな教育の充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	5	事業名	少人数教育推進事業				開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対象	市内小学校1年生、市内複式学級運用校									
事業	目標	小集団の落ち着いた雰囲気の中で、感性豊かできめ細かな教育を実施する										
	事業内容	市内全小学校1年生は30人以下の学級で授業を受けることができるように、市独自で講師を採用し、各学級に配置する。また、複式学級が2学級以上の場合、市独自の講師を配置し、全ての複式学級を解消する。										
概要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	43,491	23,840	37,634	46,013						
	決算額（A）	千円	40,306	23,534	23,486							
	決算額のうち一般財源	千円	40,202	23,534	23,405							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 市採用講師は適切に配置された。	
	事業の実績	1	市採用講師	人	10	6		6
		2						
		3						
	事業の成果	1	30人学級にすることによって増加する学級数	クラス	6	2		3
		2	複式解消学級数	クラス	4	4		3
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	A	複式授業における教員の負担を減らし、児童一人一人への手厚い指導を行うことが出来、白山ろくにおける複式解消の効果が大きい。また、市内全小学校で1年生は30人学級の実施により、担任が一人一人を丁寧に指導する時間の確保ができています。このことから、国が進める個別最適化に効果があったと考える。									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横這い <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少	少人数学級、複式授業解消のニーズ、特に山麓における複式授業解消へのニーズは大きい。必要人数の変化はないため、横ばいと考える。									
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	学校教育の入門期にある小学校1年生にとって、小集団によるきめ細かな指導が学校生活の適応には非常に重要である。また、効率的な学習を推進するには、複式授業の解消は不可欠である。									
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	へき地複式教育の質の向上を目指し、白山市へき地複式教育振興会の後援を市としても行っている。また、これまでも進めてきたことだが、さらに30人以下学級であることを活かす個別最適化に向けた指導法を工夫していく必要がある。									
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	配置の基準が明確であり、市内の学校間における公平性は確保されている。									
	上記等を踏まえた事業の振り返り	少人数学級、複式授業解消のニーズはあるが、講師の確保が、近年難しい状況が続いているため、事業の拡大は難しい状況である。											
	今後/令和5年度の主な取り組み	国・県の学級編成基準の動向に注意しながら、引き続き本事業を継続していく。											

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	外国語教育・国際理解教育の充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	外国語指導助手配置事業					開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	小学校外国語活動、中学校英語科授業										
事業の概要	目標	小学校児童や中学校生徒に外国の文化理解を促し、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度、意欲を高めるために、外国語指導助手と英語を話したり聞いたりする機会を確保する。										
	事業内容	外国語指導助手や地域講師を小中学校の外国語活動や外国語（英語）科の授業のために配置する。										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	66,180	62,691	72,613	73,012	学習指導要領全面実施により増加した小学校実施時間に対応するためALTを主に中学校、地域任用を主に小学校に配置した。					
	決算額（A）	千円	64,853	61,850	69,912							
	決算額のうち一般財源	千円	64,700	61,850	69,577							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 ・国際交流事業の研修会の講師 ・小学校国際交流授業への派遣 ・中学校3年総合テスト作成に係る補助 《学習指導要領実施に伴う目標時間》 中学校：140時限 小学校5・6年：70時限 小学校3・4年：35時限	
	事業の実績	1	JETプログラムALT	人	7	5		5
		2	地域講師	人	5	10		10
		3	1以外のALT	人	0	0		0
	事業の成果	1	中学校英語科実施時数	時限	35	35		35
		2	小学校5・6年実施時数	時限	70	70		70
3		小学校3・4年実施時数	時限	35	35	35		

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B 概ね期待どおり	市内小中学生が授業でのやりとりを通して、外国語指導助手と直接、英語で話したり聞いたりする機会を得て、外国語学習への意欲を高めることができた。また、外国語指導助手が出身国の文化を紹介することにより、異文化理解を具体的に深める機会を確保できた。									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)		<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	JETプログラムALT5名、地域講師10名の合わせて15名で人数は前年度から変わりはない。運用の工夫により全授業へ配置できているが、授業の打ち合わせに十分時間がとれていない状況である。					
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	学習指導要領に対応した授業を展開するためのJETや地域講師との打ち合わせの時間を確保するために、地域講師等の任用を増加させたい。						
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	時間割や配置の工夫などにより、移動時間のロスをできるだけ省いているが、教員との打ち合わせ時間のより一層の充実を図る必要がある。						
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	授業への配置は公平になされているが、指導助手の一人当たりの授業時数に違いがあり、資質向上に資する研修時間に差があるため、適正な配置による公平性を高める必要がある。					
	上記等を踏まえた事業の振り返り		JETプログラムALTと地域講師による小・中学校の授業への配置により、児童生徒が英語で聞いたり話したりする機会を確保することができた。加えて、学校の要請に応じ、国際交流の授業等にも参加し、外国の文化理解を促進できた。反面、打合せの時間の確保が難しく課題となっている。										
	今後/令和5年度の主な取り組み		児童生徒の英語への関心意欲を高めるとともに、外国語指導助手の指導力向上及び外国語指導助手の更なる効果的な活用のために、研修会を開催したり、指導に係る相談体制を整えたりしていきたい。また、少人数教室等の導入によるクラスの増加に合わせた適正な配置を進めるとともに、より授業の質を向上させるために、地域講師等の更なる任用についても検討することが必要。										

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	障害のある子どもに開かれた教育の充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	特別支援教育事業の推進					開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対象	小学校・中学校									
事業の概要	目標	障害のある児童生徒に対し、個々のニーズに応じた教育を組織的・計画的に展開することを目標に行う。										
	事業内容	特別支援教育支援員の配置・特別支援教育アドバイザーの配置・特別支援教育支援員研修・通級指導教室担当者研修の開催										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	122,036	127,352	137,861	142,979	支援員増員数					
	決算額（A）	千円	119,724	126,955	128,605		R2⇒R3 +5人、R3⇒R4 +1人					
	決算額のうち一般財源	千円	116,480	126,955	128,169		R4よりアドバイザー 新規1人					

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果
	事業の実績	1 通級指導教室担当者研修	回	1	2	2	
	2 特別支援教育支援員の配置	人	61	66	67		
	3 特別支援教育支援員研修	回	0	2	2		
事業の成果	1 通級指導教室担当者研修参加者	人	11	21	23		
	2 特別支援教育支援員研修参加者	人	0	136	123		
	3						

事業の評価	区分		判定及び説明・考察			
	有効性（達成度）	期待された成果は得られたか	B	・支援員が1名増員となり、発達障害のある児童生徒の対応に有効に機能したが、ニーズは一層高まっているため、更なる増員が求められる。 ・「白山市版個別的教育支援計画」等の活用が浸透してきており、学校現場におけるよりの確かな児童生徒への支援が行われるようになってきた。		
必要性	事業のニーズに変化があるか（事業実施後のニーズの変化）	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 横這い <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少	発達障害のある児童生徒の増加に伴い、生徒指導主事との連携など、今後も各学校での計画的・組織的な対応が求められる。			
	市の関与を見直す余地はあるか（市が関与する範囲は適切か）	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり（R5に改善） <input type="checkbox"/> 余地あり（R6以降改善）	学校教育法にある特別支援教育の実施や発達障害支援法の規定に基づいた事業となっており、市として現状の取組を継続すべきである。			
効率性	効率性を高める余地はあるか（効率的に実施できたか）	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり（R5に改善） <input type="checkbox"/> 余地あり（R6以降改善）	研修を通して専門性を高め、さらに個に応じた適切な支援を図る必要がある。			
	公平性	公平性を見直す余地はあるか（事業の効果は公平に配分されたか）	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり（R5に改善） <input type="checkbox"/> 余地あり（R6以降改善）	特別支援教育支援員の配置については、校長からの要望を聞いたり、特別に支援の必要な児童生徒の実態を十分把握したりしながら、必要性の高い学校に対して適切に配置できるようにしていく。		
	上記等を踏まえた事業の振り返り	通級指導担当者や支援員の年2回の研修により、専門性を高めたり、情報交換をしたりすることで、現場での個々の特性に応じた支援に生かされている。また、特別支援教育アドバイザーの配置により、増加傾向にある就学相談業務の負担軽減を図り、学校の困り感に応じた相談・助言を行うことができた。				
	今後/令和5年度の主な取り組み	R5年度は、特別支援教育アドバイザーを1名増員し、就学相談業務のより一層の効率化を図る。また、アドバイザーの学校訪問や校内研修会等への参加機会を増やすことで、きめ細やかに学校現場のニーズに応じた助言・支援ができるようにしていく。全体を通しては、関係課との連携を一層密にし、障害のある児童生徒への早期の支援を実施していく。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	子どもたちが安心して成長できる地域に開かれた環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）
基本施策	学校保健の充実・食育の推進

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	9	事業名	地元産食材使用推進事業				開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	児童生徒の給食											
	目標	給食に使用する食材について、地元産のものを多く使用する。											
	事業内容	給食用食材として地元産を積極的に利用する。											
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項						
	最終予算額（5年度は当初）	千円	-	-	-	-	食材費は、保護者負担のため、公費負担なし						
	決算額（A）	千円	-	-	-	-							
	決算額のうち一般財源	千円	-	-	-	-							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 【事業の成果2：地元産食材使用率】 推進計画の対象食材は14品目： 玉ねぎ、じゃがいも、キャベツ、人参、大根、白菜、ねぎ、きゅうり、里芋、小松菜、ごぼう、トマト、南瓜、ブロッコリー 推進計画目標値：令和8年度において使用率25%（これを基にすると、計画に対するR4達成率88.8%）	
	事業の実績	1	白山めぐみん給食	回	5	5		6
		2	地元食材学校給食配送事業（地産地消連携事業）	回	9	4		5
		3						
	事業の成果	1	地元産一等米使用率	%	100	100		100
		2	対象地元産食材使用率	%	24.7	23.2		22.2
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	地産地消課と連携し、地域の農家や法人の協力を得ながら、全小中学校で、地元産食材による給食を提供することができた。									
				概ね期待どおり									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加		<input checked="" type="checkbox"/> 横這い				<input type="checkbox"/> 減少		<input type="checkbox"/> かなり減少		
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	市の施策として、地産地消を推進しており、栄養価や新鮮度の面からも、地元産食材へのニーズは高い。										
	効率性	市との関与を見直す余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し		<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し				<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)		<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)		
		効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	安定した供給を維持するためには、市の施策として地元産食材使用推進を明確に打ち出すことで、生産者側に生産意欲を促進させることができる。										
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し		<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し				<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)		<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)		
公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)		地域の実情に応じて、食材の調達先が異なるので、学校ごとに状況は異なるが、全校で導入が来ている。											
上記等を踏まえた事業の振り返り		市内小中学校において地域の農家から地元産食材の提供を受けているが、特に蕪城小学校では食材の納品だけでなく、児童が農家の農園で栽培体験を行うなど様々な活動を行うことができ、児童たちにとって地元産食材がより身近なものとして感じられるようになった。											
今後/令和5年度の主な取り組み		R5年度は地元産1等米のほかに特別栽培米を使用する。今後も引き続き地元産食材の使用を推進していく。											

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	子どもたちが安心して成長できる地域に開かれた環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	確かな学力の形成と豊かな心の育成(感性のびのび教育の推進)
基本施策	教職員の資質・能力の向上

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業概要	No	10	事業名	教職員研修事業				開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	小学校・中学校の教職員											
	目標	教職員への研修を通じて、児童生徒の学力および指導力向上を図る。											
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 基本研修→教職員研修（授業づくり研修・学級づくり研修・初任者研修・発達障害の理解研修・GIGA端末活用） 指定研修→担当者研修（主任等研修、特別支援教育支援員研修、通級指導教室担当者研修） 											
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項						
	最終予算額（5年度は当初）	千円	23	24	24	24							
	決算額（A）	千円	6	6	9								
決算額のうち一般財源	千円	6	6	9									

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 ・オンライン研修 2講座 （主任等研修、特別支援教育支援員研修1） ・対面型研修 8講座 （授業づくり研修、学級づくり研修、初任者研修、GIGA端末活用、特別支援教育支援員研修2、通級指導教室担当者研修1・2） ※発達障害の理解研修は雪のため中止	
	事業の実績	1	各種研修会・講座開催回数	回	5	14		10
		2						
		3						
	事業の成果	1	各種研修会・講座参加人数	人	79	559		333
		2						
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	確かな学力を育む授業づくり研修及び学びを支える学習基盤である学級づくり研修を中心として行ったことにより、学校訪問において教職員の指導力の向上がみられるなどの成果が得られている。 概ね期待どおり									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	教科指導のスキル向上、学級経営のスキル向上、学校組織体制の充実を図る主任研修、教育課題に対する対応力の向上研修など、教職員研修の必要性はいつそう高まっている。						
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	本市の児童生徒を感性豊かに育てるためには、市としての方向性を定め、実施することが重要であり、市の関与が必要である。						
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	県が開催する研修内容を確認しながら、研修内容の重なりや、本市としてさらに重点とすべき研修内容などについて検討を図った。						
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内小中学校の全教職員の担当職務について、研修を受ける公平さを確保している。					
	上記等を踏まえた事業の振り返り		新学習指導要領改訂に伴う教科指導として、体育・保健体育科の研修を実施して完了した。年度当初に実施する必要がある研修については、オンライン研修で行い、参加しやすい体制をつくった。										
	今後/令和5年度 の主な取り組み		ユニバーサルデザインの学級経営の研修、GIGA端末活用研修、発達障害に対する支援の方法や理解を深める研修が今後も必要である。										

事務事業別点検・評価シート（個別シート）

基本目標2

教育環境の整備充実

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	安全で快適な教育施設の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	教育環境の整備充実
基本施策	安全で快適な教育環境の整備

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	11	事業名	小中学校施設整備事業			開始年度	H17	実施方法	工事請負	国庫等・市単	国庫・市単
	対 象	市内の全小中学校										
	目 標	校舎や体育館等の保全を行うとともに、継続的な大規模改造等により、安全で快適な教育環境を維持する。										
	事業内容	<p>【大規模改造】松任小学校（実施設計）、東明小学校（校舎等）、北星中学校（実施設計）、鶴来中学校（校舎及び体育館等）、鳥越中学校（校舎等）</p> <p>【修繕等】蝶屋小空調設備更新・ガスバルク更新、松陽小高圧受電設備改修、白嶺小雪囲い改修、松任中プール改修、笠間中自転車置場設置、北辰中下水管改修 ほか</p>										
	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	1,940,815	3,097,524	3,952,534	1,506,104	R3→R4へ繰越 1,616,760千円 R4→R5へ繰越 1,405,151千円					
	決算額（A）	千円	873,739	1,735,026	2,527,896							
	決算額のうち一般財源	千円	31,117	228,061	201,215							

実績と成果	区 分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	小学校 改修及び修繕件数	件	78	76		82
		2	中学校 改修及び修繕件数	件	35	35		33
		3	大規模改造工事	校	3	4		5
	事業の成果	1	トイレの洋式化	率	72.8	74.9		82.5
		2	多目的トイレの設置	率	77.8	85.2		92.6
3		体育館照明のLED化	率	52.4	59.5	61.9		

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	全ての学校において改築又は大規模改造工事が完了しており、大規模改造や長寿命化改良工事に併せてバリアフリー化や環境に配慮した設備の更新等に取り組むなど、質の高い教育環境の実現を図っている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	安全で快適な教育環境を維持するためには、引き続き予防保全的な修繕を行うとともに、老朽化した校舎等を順次整備していく必要がある。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	公立学校の施設整備は、市が主体となって進めていくものであり見直す余地はない。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	大規模改造等の時期が近い施設は最小限の修繕で対応しつつ、後年、国庫補助事業を導入して抜本的な改修を行うなど、効率的に整備を進めている。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	全小中学校において良好な学習環境を等しく提供できるよう努めるとともに、財源の一部に学校施設等整備事業債を充てるなど、財政負担の平準化等を図っている。
	上記等を踏まえた事業の振り返り		鶴来中及び鳥越中における大規模改造を予定どおり完了。断熱防水や多目的トイレの設置、LED化などの機能向上を併せて実施。改修事業では、予め予定していた白嶺小中学校の雪囲いや松任中のプールのほか、複数個所の空調設備等の緊急修繕にも適切に対応することができた。				
	今後/令和5年度の主な取り組み		東明小の長寿命化改良はⅢ期に入っており、令和5年度に完了予定。新たに松任小及び北星中の長寿命化改良に着工する。湊小におけるエアコンの更新や白峰小のプールサイド改修等を行うほか、引き続き学校施設における環境改善（トイレの洋式化等）を進める。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	子どもたちが安心して成長できる地域に開かれた環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	教育環境の整備充実
基本施策	安全教育の推進

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	通学路合同点検事業					開始年度	H27	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対象	通学路の危険箇所									
事業	目標	安全な通学環境の確保										
	事業内容	通学路安全推進会議を組織し、通学路の危険箇所のリストアップや、道路管理者、警察等との合同点検の実施により、危険情報を共有している。										
概要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	-	-	-	-	予算執行を伴わずに実施					
	決算額（A）	千円	-	-	-							
	決算額のうち一般財源	千円	-	-	-							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果
	事業の実績	1	点検箇所数	所	198	251	
2		点検箇所数のうち要改善数	所	104	131	114	
3		点検箇所数のうち新規数	所	99	199	148	
事業の成果	1	合同点検により対応	所	67	78	85	
	2	次年度以降検討	所	31	21	22	
	3	上部機関等への上申・要望	所	6	32	7	

事業の評価	区分		判定及び説明・考察			
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	A 期待を上回る	市PTA連合会の協力を得て危険箇所をリストアップし、通学路安全推進会議を通じて情報共有をし、関係機関による合同点検・対策を実施することで、これまで以上に改善につなげることができた。		
必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横這い <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少	昨年度と比べて点検箇所数は減少したが、市だけではなく、県道路管理者や警察と情報が共有されるため、依然としてニーズは高い。			
	市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	道路管理者や警察のほか、PTA連合会、学校等の意見も取り入れているため、市教育委員会が事務を執っている。			
効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	個別事案ごとに関係者と協議する必要がなく、情報が共有されるので、効率的である。			
公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	小学校、中学校ともに対象としており、公平性を維持している。			
上記等を踏まえた事業の振り返り		本市の通学路点検は、点検数が県内トップであり、対応数の割合を増加させていくことで、安全な通学環境の確保を推進できると考える。今後は更なる事務の効率化を図っていきたい。				
今後/令和5年度の主な取り組み		通学路の危険箇所の年度当初のリストアップについて、リスト作成を始める時期には市PTA連合会が新役員となっており、前任から引継ぎを受けながらの作成となるなど、非効率な部分があった（4月ごろからリスト作成→6月末完成）。このことから、今年度は役員が交代する前にリストアップを完了させることとする（3月末完成）。また今後は、地域の子ども見守り隊の声も活かし、通学路の安全を推進していきたい。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	子どもたちが安心して成長できる地域に開かれた環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	教育環境の整備充実
基本施策	就学支援の充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	13	事業名	児童生徒就学支援事業			開始年度	H17	実施方法	補助	国庫等・市単	市単
	対 象	白山市立の小・中学校に通う児童・生徒の保護者のうち経済的な支援を必要とするもの										
	目 標	経済的理由によって就学が困難となる状況を回避させ、安心感のある教育環境を維持する。										
	事業内容	学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費のほか、新入学児童生徒の学用品費等の一部に対して、援助費を給付する。所得による制限あり。通学距離が長い児童生徒には通学に利用するバス利用料金等の費用の実費又は半額相当額の補助金を交付する。										
	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	146,851	162,585	163,686	176,593	新入学児童生徒学用品費は、R3→4年度で単価3,000円アップ					
	決算額（A）	千円	140,298	159,597	160,189							
決算額のうち一般財源	千円	140,139	157,606	157,699								

実績と成果	区 分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	受給人数（就学援助）	人	1,706	1,692		1,631
		2	受給人数（遠距離補助）	人	220	226		221
		3						
	事業の成果	1	受給者の割合（就学援助）	%	17.80	17.70		17.37
		2	対象者の申請率（遠距離補助）	%	95.20	93.20		94.04
3								

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察			
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	就学援助について、援助費を3回に分けて分割支給することで、家計に大きな負担を及ぼさないようにした。通学補助については、通学距離が長いことで路線バス等の費用に対し、補助金を交付することで、経済的負担を軽減させ、通学距離が長いことに対する保護者の不公平感を緩和させることができた。		
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横這い <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少	就学援助は低所得世帯を対象とした制度であるため、常にニーズがあり、一定の所得制限を設けている。通学補助は、積雪時に中学生の自転車通学ができないことにより、常にニーズがあり、町名で対象を限定している。		
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し <input type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	就学援助は生活保護世帯を対象とする国の援助制度に準拠しており、国による地方財政措置制度の対象で地方交付税が交付される。また、通学補助制度がない場合、保護者の経済的負担が増え、本市の地理的特性を鑑みると必要な制度である。		
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	就学援助において、電子申請システムの利用を検討する。通学補助は鳥越小学校において、民間バス乗車による現物給付方式をとっており、市が業者に直接料金を支払うことで、保護者の負担を軽減している。		
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	修学旅行費、学校給食費等については、実費相当額を支給しており、公平性に配慮している。通学補助は学校で対象児童生徒に申請書を配布しているため、申請辞退はほとんどない。		
	上記等を踏まえた事業の振り返り	申請もれがないように全児童生徒の保護者に通知を出し、広報、ホームページでも周知している。交通機関の運行路線、ダイヤ等の影響を受けるので、関係団体との連絡調整が必要となる。				
今後/令和5年度の主な取り組み	効率性を高めるために、本市の電子申請サービスの利用を検討する。申請もれがある保護者に対し、申請書の提出を促す。					

事務事業別点検・評価シート（個別シート）

基本目標 3

文化の継承と創造

第2次白山市総合計画	
章	自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり
節	白山文化・白山ブランドの確立と魅力を発信します
項	品格と文化が感じられるまちの形成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	文化の継承と創造
基本施策	文化施設の充実と活性化

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No.14	事業名	松任中川一政記念美術館管理運営事業				開始年度	S61	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	市民及び児童生徒並びに一般										
	目標	本市ゆかりの文化勲章受章者・中川一政画伯を顕彰すると共に、市民等に優れた芸術鑑賞と文化活動の機会を提供し、芸術文化の向上を図る。										
	事業内容	施設管理及び収蔵資料の保存・研究、公開並びに教育・普及事業の実施。 ・施設管理事業(施設管理及び修繕、資料管理及び修復等) ・施設改修事業(建物及び設備改修) ・施設運営事業(企画展及び児童生徒対象公募展の開催、講座・イベント等の開催、物品制作及び販売、資料調査及び収集、館報発行等)										
	要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項				
	最終予算額(5年度は当初)	千円	18,507	22,220	27,455	29,083	R3: 没後30年特別展4,854、屋根等改修1,134 R4: LED化9,050、空調設備整備等2,387 R5: 生誕130年特別展(市単分)1,600、作品修復2,800、施設リニューアル基本設計10,351					
	決算額(A)	千円	16,900	18,580	25,911							
	決算額のうち一般財源	千円	15,232	16,156	17,287							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	開館日数	日	253	223		289
		2	展覧会開催数(公募展含む)	回	5	5		5
		3	講座・イベント等開催数	回	16	18		12
	事業の成果	1	入館者数	人	10,644	9,731		10,693
		2	講座・イベント等参加者数	人	124	205		235
3		公募展応募数	点	769	739	601		

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性(達成度)	期待された成果は得られたか	B	博物館法にのっとり資料の保全と公開及び普及活動という美術館の役割を遂行し市民に優れた芸術を享受する機会を提供している。令和4年度の同法改正(R5.4.1施行)に対応し、資料のデジタル・アーカイブ化や他館等との連携にも取り組んだ。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか(事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	
		市の関与を見直す余地はあるか(市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)	
	効率性	効率性を高める余地はあるか(効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)	
		公平性を見直す余地はあるか(事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)	
	上記等を踏まえた事業の振り返り	公募展事業については、応募数の低迷が課題であったため、学校指導課及び市学校教育研究会 図工美術部会と協議し、募集テーマを柔軟にするなど要項を改定し市内小・中学校に再度協力を依頼した。					
	今後/令和5年度 の主な取り組み	公募展事業については、募集期間の延長など更に応募しやすい環境を整え、学校での取組を呼び掛ける。今後も貴重な芸術作品を継承し、市民のために活用すると共に、文化観光施設としてのニーズに応える運営を行う。同時に、施設の魅力アップ及び機能向上のため増築改修計画を進める。					

第2次白山市総合計画	
章	自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり
節	白山文化・白山ブランドの確立と魅力を発信します
項	品格と文化が感じられるまちの形成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	文化の継承と創造
基本施策	文化施設の充実と活性化

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	15	事業名	博物館管理運営事業			開始年度	S63	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	市民他										
	目標	白山市立博物館の管理運営を行い、収蔵品の保存・収集に努める。白山市の歴史・文化の保存と伝達に努めるとともに、市民参加の企画を催し歴史・文化を身近に感じてもらう。										
	事業内容	施設管理及び収蔵資料の保存・研究、公開並びに教育・普及事業の実施。 ・施設管理事業（施設管理及び修繕、資料管理及び修復等） ・施設改修事業（建物及び設備改修） ・施設運営事業（企画展・特別展の開催、収蔵品を活用した小学生対象博学連携事業の開催、講座・イベント等の開催、資料調査及び収集、館報発行等）										
	要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項				
	最終予算額（5年度は当初）	千円	22,965	19,583	16,723	20,562	改修工事					
	決算額（A）	千円	20,475	19,051	16,524		4年度：排気ファン取替工事					
	決算額のうち一般財源	千円	18,220	18,575	15,315		3年度：なし					
							2年度：トイレ洋式化改修工事					

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	開館日数	日	258	233		308
		2	企画展・特別展の開催	回	3	4		4
		3	鉄道模型運行・講座等の開催	回	7	9		11
	事業の成果	1	入館者数	人	6,036	6,047		7,946
		2	企画展・特別展の入館者数	人	3,743	3,967		4,227
3		鉄道模型運行・講座等の入館者数	人	447	880	2,584		

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	コロナ禍であったが、入場者数の制限緩和等の措置もあり、臨時休館もなく各種イベントや講座を実施した結果、入館者数は増加した。排気ファン取替工事等必要な修繕を行い、適正な施設管理を実施した。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	本市を含む加賀地方の歴史と文化を総合的に理解する場所として不可欠な施設である。登録博物館として、計画的な整備を行い、効率的な管理運営を進めていく必要がある。				
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
		公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
	上記等を踏まえた事業の振り返り		施設管理では2F常設展示排気ファン取替や空調機用ダンパーや加湿器給排水電磁弁の取替等予定通り完了。ホームページや白山市公式LINE等を積極的に活用して事業開催等の情報を広く発信し入館者増に繋がった。				
	今後/令和5年度 の主な取り組み		施設本体が建設から30余年経過しており長寿命化計画による施設の改修を順次行っていく。博物館法の一部改正もあり、博物館の運営も地域の文化の特色を生かし、地域の活性化を図るため、学芸員の拡充をすることによって、常設展示の内容の充実を図り、市の歴史の継承や保存に努めていく。企画展で小学生対象の博学連携事業の充実等地域の活力の向上に取り組む。				

事務事業別点検・評価シート（個別シート）

基本目標 4

地域に根ざした
特色ある学校の創造

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	地域に根ざした特色ある学校の創造
基本施策	白山手取川ジオパーク・白山ユネスコパークについて理解を深める体験活動の充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	感性のびのび俳句大会の実施					開始年度	H20	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対象	小学生、中学生									
事業の概要	目標	本市の良さを生かした教育に取り組む。俳人「加賀の千代女」を生んだ本市において、児童生徒に日本の伝統文芸である俳句に親しむ機会を設け、豊かな感性を育てる。										
	事業内容	地域の学習資源や人材を活用し、地域と学校が一体となって地域に根差した学習活動を推進する。										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	204	204	204	201						
	決算額（A）	千円	201	201	208							
	決算額のうち一般財源	千円	201	201	208							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 ◆感性のびのび俳句大会 毎年11月1日に実施。市内全小中学生対象。 市内児童生徒が創作した俳句は、市俳句協会へ審査を依頼し、「俳句大会特選入賞者表彰式」を行った。	
	事業の実績	1	感性のびのび俳句大会	回	1	1		1
		2						
		3						
	事業の成果	1	応募数（小学校）	句	6,195	6,150		6,134
		2	応募数（中学校）	句	3,360	3,361		3,258
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	本大会は、令和4年度で15回目であり、いしかわ教育ウイークに全市内小中学校28校で一斉に実施することができた。一人一句創作した俳句の中から、優れた作品を選び、表彰式を行うこともできた。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	児童生徒に俳句に親しむ機会を設け、俳句の楽しさを体感させるとともに、自然に対する豊かな感性を育て、言語感覚や詩的表現能力の育成をめざすため実施する必要がある。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	児童生徒が創作した俳句は教育委員会が集約し、市俳句協会へ審査を依頼している。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内小中学校の児童生徒すべてを対象としていることから、見直す余地はないものと考えられる。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	審査は、学級ごとに入選句を数点選び、学年ごとに「特選2句」「優秀3句」「優良5句」を選んでいる。
	上記等を踏まえた事業の振り返り	俳句づくりに親しむ学習活動を推進していくため、地域の学習資源や人材を活用していく必要がある。					
	今後/令和5年度 の主な取り組み	引き続き、いしかわ教育ウイークに全市内小中学校28校で一斉に実施し、市俳句協会へ審査を依頼し、一人一句創作した俳句の中から優れた作品を選び、「俳句大会特選入賞者表彰式」を行う。					

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	地域に根ざした特色ある学校の創造
基本施策	白山手取川ジオパーク・白山ユネスコパークについて理解を深める体験活動の充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	SDGs・白山手取川ジオパーク研究事業	開始年度	R4	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	小学生、中学生						
事業	目標	白山手取川ジオパークの地域の魅力や地域の成り立ちと、SDGsを関連付けた研究等に先進的に取り組むことにより、児童生徒に本市の良さを生かした教育に取り組む。						
	事業内容	白山手取川ジオパークの地域の魅力や地域の成り立ちの研究を市内全小中学校で実施する。						
概要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項	
	最終予算額（5年度は当初）	千円			1,500	1,400	【予算額】	
	決算額（A）	千円			1,336		R4：各校 50千円 全国大会参加校は60千円	
	決算額のうち一般財源	千円			1,336		R5：各校 50千円	

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 ◆日本ジオパーク全国大会白山手取川大会 R4.10.21~23開催 〈参加校〉美川小、湊小、蝶屋小、河内小、鳥越小、白嶺小、白峰小、美川中、鳥越中、白嶺中 計10校	
	事業の実績	1	研究校（小学校）参加人数	人				2,322
		2	研究校（中学校）参加人数	人				1,292
		3						
	事業の成果	1	第12回日本ジオパーク全国大会参加	校				10
		2						
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	日本ジオパーク全国大会の開催に伴い、参加校を中心に、各学校におけるジオパーク学習が充実してきた。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	ユネスコ世界ジオパーク認定により、学校だけでなく、地域からのニーズの高まりが見られる。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	カリキュラムマネジメントの視点で事業を組み込むように推進しているため、適切である。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	計画書の提出により事業内容と教育課程の関連性を確認した上で実施しているため、効率的な取組となっている。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内全小中学校が事業対象校であるため、公平さを確保している。
	上記等を踏まえた事業の振り返り		各学校が、総合的な学習の時間や教科の学習の中で、SDGs白山手取川ジオパーク推進事業の取組を位置づけ、計画的・継続的な取組になるように工夫している。				
	今後/令和5年度 の主な取り組み		より一層の事業内容の充実が図られるよう、各学校の特色ある教育課程の編成の中に位置づけられるよう、働きかけていく。また、世界認定を受けて、取組の継続が図られるよう推進していく。				

第2次白山市総合計画	
章	2 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	1 心豊かに学び育み地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進します
項	1 確かな学力の形成と豊かな心の育成
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	地域に根ざした特色ある学校の創造
基本施策	学校図書館教育の充実

SDGs 目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	学校図書館充実事業					開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対 象	小学校、中学校									
事業	目 標	学校図書館の年間貸出冊数の増加を図る										
	事業内容	全学校に配置している学校司書を活用し、児童生徒・教職員に対する読書相談や図書の紹介の作成、学習と関連させた図書の配置、蔵書のデータベース化等、学校図書館環境の充実に努める。										
概要	予 算	単位	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	16,321	15,705	18,894	14,741	図書購入費					
	決算額（A）	千円	16,312	15,635	18,869							
要	決算額のうち一般財源	千円	16,312	15,635	18,869							

実績と成果	区 分		単位	2 年度	3 年度	4 年度	左記以外の令和4年度の実績・成果
	事業の実績	1 小学校蔵書冊数	冊	245,531	251,045	252,752	
	2 中学校蔵書冊数	冊	134,938	138,691	141,634		
	3						
事業の成果	1 小学校一人あたり貸出冊数	冊	137	134	128		
	2 中学校一人あたり貸出冊数	冊	42	39	38		
	3						

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察			
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	教育界は、GIGAスクール構想や情報化の進展など、新たな段階を迎えているが、本市独自の取組を進めてきた図書館教育の充実は本市の強みとなっており、児童生徒に豊かな心をや感性を育み、学力を支える基礎の力にもつながっている。		
必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	情報教育の充実や学習面での活用の必要性を受け、図書館教育の専門性をもつ学校司書の役割は大きい。今後、探求型学習や図書の更なる情報化（電子化）なども課題となってくる見込みである。
	市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	学校図書館支援センターを軸にした、必要図書や取組などの情報共有だけでなく、図書の相互活用が図られ、市全体としての効率的な図書館教育が実現されている。
公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	本市の学校司書には、非正規採用の職員も一定数いるが、司書部会での定期的な研修や支援システムなどにより、全校で差のない図書館教育が実現されている。
	上記等を踏まえた事業の振り返り	大きな環境変化（読書・情報教育・探求型調べ学習・情報端末との併用・電子書籍対応など）が起きている中、更に学校での図書館教育を充実させ、児童生徒の豊かな感性や確かな学力につながる取組の充実を図ることができた。				
	今後／令和5年度の主な取り組み	学校図書館教育の役割の多様化に向けて、学校司書が時代に対応した見識を身に付け深めていくこと、スキルアップ、学校教員との連携の在り方などについて、研修会などを充実させることで今後更に検討を進めていく必要がある。				

事務事業別点検・評価シート（個別シート）

基本目標5

生涯にわたり

学び続ける環境づくり

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	生涯学習を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	笑顔かがやく生涯学習の推進

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	19	事業名	生涯学習施設等活用推進事業			開始年度	H17	実施方法	委託	国庫等・市単	市単
	対象	市民										
	目標	生涯学習の機会を確保し、文化的な地域社会の創造及び心豊かな市民の育成に寄与する。										
	事業内容	指定管理施設である松任文化会館ピーノ、美川文化会館アクア、鶴来総合文化会館クレイン、松任学習センタープララの4施設の利用促進のために、それぞれの指定管理先の工夫による自主事業等の実施も交えながら、ホールや研修室等、各施設が利用しやすい環境を整え、生涯学習施設の活用の推進を図る。										
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	481,791	381,274	254,477	292,452						
	決算額（A）	千円	471,615	379,185	251,904							
決算額のうち一般財源	千円	216,492	218,195	214,695								

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 コロナ禍の期間は感染対策のための利用の制限を設けながら各施設を開館していたが、コロナの状況の落ち着きに合わせ自主事業の実施等により来館を増やしている。 自主事業も「ランチタイムコンサート」や「体操教室」など各施設において工夫した取組を行っている。	
	事業の実績	1	利用件数（ホール）	件	348	467		629
		2	利用件数（会議室等）	件	2,688	3,488		4,324
		3						
	事業の成果	1	利用人数（ホール）	人	43,816	48,897		111,164
		2	利用人数（会議室等）	人	40,691	74,876		79,385
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B 概ね期待どおり	指定管理者が実施する自主事業等も含め、利用増につながる工夫がなされてきた結果、ホール・会議室等ともに利用件数が増えており、それに伴い利用者も伸びてきている。									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 横這い <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少	指定管理者の工夫により感染症拡大防止やアフターコロナの対策をしながら利用者増を図っている。									
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	指定管理者 (R3年4月～R8年3月末) 美川文化会館：NPO法人ぴいすく美川、その他3施設：市地域振興公社・市文化協会									
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	指定管理者の管理のもと、自主事業を増やして地域の特徴も生かしながら運営している。									
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し <input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し <input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善) <input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	各施設が競合せず、特徴を生かした運営がなされている。								
	上記等を踏まえた事業の振り返り		指定管理者主催の自主事業や貸館業務のための呼び込み等、工夫により利用者は増加し生涯学習の機会の確保がなされてきている一方で、施設設備の老朽化に対応し順次修繕や改修をしながら活用していく必要がある。										
	今後/令和5年度の主な取り組み		指定管理者による自主事業の内容の工夫や実施回数を増やすよう促し、施設の認知度を上げながら利用増に努める。 各施設において社会教育の特色を生かすことができるように、専門性も求めていく。										

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	生涯学習を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	笑顔かがやく生涯学習の推進

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No 21	事業名	生涯学習のまちづくり推進事業					開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対 象	市民										
	目 標	情操豊かな人間性と生活の質的向上を目指し、事業の参加を通して生涯学習活動を推進する。										
	事業内容	各地区の特色を生かす公民館事業以外においても生涯学習事業の実施を進め、市民の学習の機会を増やしていく。市内の資源を主に学ぶ「はくさん学び舎講座」では講義と現地学習を組み合わせた複数回の学習機会を設け、学習内容に深みをもたせている。多くの市民が集う「生涯学習のつどい」では、現在市民の関心が高い地域づくりをテーマとした講演を設け、今後のまちづくりに繋げる内容としている。										
	要	予 算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項				
	最終予算額（5年度は当初）	千円		3,658	655	785	663					
	決算額（A）	千円		1,571	306	562						
	決算額のうち一般財源	千円		119	306	493						

実績と成果	区 分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	学び舎講座等回数	回	3	3		4
		2	生涯学習のつどい	回	1	1		1
		3						
	事業の成果	1	学び舎講座等受講者延人数	人	133	93		29
		2	生涯学習のつどい	人	50	146		約200
3								

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	生涯学習事業のうち「学び舎講座」では参加者が振り返りの記録を作成する機会を設け、さらに、学習内容の共有を図り、他にも広められるような内容にしている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
		公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
	上記等を踏まえた事業の振り返り		より多くの市民に生涯学習への参加を促し、一人ひとりの参加意欲が保たれる内容を目指す。また、学習者自身が周囲に広められるよう学習拡大の工夫を行う。そのような取組も含め、生涯学習活動の一層の推進を図る。				
	今後/令和5年度の主な取り組み		これまでも地域をテーマとした学習機会を設けているが、ユネスコ世界ジオパークの認定を機に、講座では「ジオパーク学習」を意識した内容を推進し、市内各地域の魅力を学ぶ機会を増やしていく。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	生涯学習を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	元気あふれる人・地域づくり

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	21	事業名	公民館活動推進事業			開始年度	H17	実施方法	委託	国庫等・市単	市単
	対象	地区住民										
	目標	各種事業の実施を通して住民の教養向上、健康の増進に寄与する。										
	事業内容	28公民館への来館による利用促進と公民館が実施する「公民館活性化事業」など地域の特色を生かした事業への参加促進により、公民館を核とした地区活性化を進め、幅広い世代を対象とした住民の学びの気運を高めていく。また、活性化事業以外の事業においても各館の工夫により多彩な事業を企画・実施し公民館利用に繋げる。										
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	37,442	37,442	36,415	37,502						
	決算額（A）	千円	25,877	29,988	35,020							
決算額のうち一般財源	千円	25,877	28,988	35,020								

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	公民館利用人数	人	207,221	220,919		280,565
		2	公民館活性化事業実施回数	回	-	509		576
		3						
	事業の成果	1	公民館活性化事業延参加者数	人	-	9,955		16,736
		2						
3								

健康志向の高まりによるウォーキング教室にさらに歴史探訪等の付加価値を加えた教室も実施されている。令和6年度のコミュニティセンターへの移行を前に新たな事業への取組も見られ、住民主体の活動につながっている。

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	28公民館それぞれの毎年の工夫により、中心となる事業が増え、それに伴い事業参加者や公民館利用者も増えている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	各地区における社会教育推進のための施設で、地域コミュニティにおける中心的役割を果たしている。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	事業の見直しや改善を適宜進めており、あわせて経費節減を踏まえて運営にあたっている。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	中心事業である「公民館活性化事業」は28館定額であるが、その他の事業費は地区人口に応じた金額で算出し委託している。
	上記等を踏まえた事業の振り返り		事業及び利用者の固定化に陥らないように社会の潮流を鑑みながら、また、住民ニーズを常に把握しながら事業を進めていく必要がある。				
	今後/令和5年度 の主な取り組み		コミュニティセンター化を機に、これまで利用が少ない若者世代など、多様な人々が集う施設となるよう事業内容を工夫し、地域づくり活動に取り組む。また、長期的な視点から、社会教育の推進を図り、事業内容の把握や指導、職員への研修を行う。特に、公民館職員の社会教育士資格の取得について、これまで以上に積極的に促していく。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	青少年教育のための環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	子どもの権利の保障

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	子どもの権利条例啓発事業					開始年度	H19	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対 象	市民									
事業の概	目 標	「白山市子どもの権利に関する条例」の周知に努め、子どもの権利保障を推進する。										
	事業内容	子どもが持つ固有の権利を意識することで子どもも大人もすべての人が幸福に生活できるまちを目指すための条例の啓発を続ける。条例に基づく市の施策の推進状況や保障状況を審議し提言する第三者機関としての「子どもの権利委員会」の開催や、子どもの意見表明の一環として実施している「子ども会議」の開催等を通して、子どもの視点による施策を推進していく。										
要	予 算	単 位	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	587	503	611	519						
	決算額（A）	千円	257	345	471							
	決算額のうち一般財源	千円	257	345	371							

実績と成果	区 分		単 位	2 年 度	3 年 度	4 年 度	左記以外の令和4年度の実績・成果 子ども会議の開催を子どもの意見表明の機会のひとつとし、さらに、子どもの提案のうち施策として実施されたものを市広報に掲載するなど啓発に努めている。今回から認知度は「知っている」「だいたい知っている」と回答した人の割合とした。（「聞いたことがある」を含まない。）	
	事業の実績	1	子ども会議の開催	回	0	1		1
		2	子どもの権利委員会の開催	回	1	2		3
		3						
	事業の成果	1	子どもの権利認知度(小5)	%	65.7	68.6		74.9
		2	子どもの権利認知度(中2)	%	59.1	61.7		72.2
3		子どもの権利認知度(大人)	%	-	77.5	83.7		

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	A	子ども会議を開催し子どもの意見表明の一機会としている。子どもの意見が施策に反映された事案などを学校や市広報を通してお知らせすることで、「子どもの権利」を身近に感じやすくしている。地域づくり活動の一助として、子どもの意見を取り入れる機会を設ける地域が出てきている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	「こども基本法」の施行など子どもの視点も重視した内容が幅広く求められている。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	今後も市が率先して権利保障の重要性を啓発していかなければならない。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市主催の活動だけではなく、各地域の取組も含め、さまざまな機会を捉えて啓発に努めている。また、意識調査の際においても回答にとどまらず周知に努めている。
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)
	上記等を踏まえた事業の振り返り		認知度の向上だけでなく権利の内容についても理解が深まるよう啓発・普及・周知に努めていく。策定された第5次子どもの権利行動計画に基づき、市の各種事業を進めていく。				
	今後／令和5年度 の主な取り組み		日常の様々な場面で「子どもの権利」に触れる機会があることを、実際の取組を紹介しながら周知していく。 地域の取組においても子どもの意見や思いを取り入れる活動も見られ、さらに子どももおとなも共に地域をつくる気運を高めていく。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	青少年教育のための環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	子どもの権利の保障

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No 23	事業名	子どもに関する相談事業					開始年度	H19	実施方法	直接	国庫等・市単	国庫等・市単
	対象	18歳未満の子ども自身と子どもに関する悩みを持つ保護者等										
	目標	子ども自身やその保護者等が気軽に、不安や悩みを相談できる相談体制の整備を図る。受けた相談等は、必要に応じて多機関連携で迅速に支援を行う。										
	事業内容	電話、メール、面接、訪問による相談対応。 多機関連携によりケース検討会の開催。 子どもに関わる職員研修会の開催。子育て講座、虐待防止講座の開催。 市内全小中学校・幼稚園・保育所(園)・児童館(センター)・放課後児童クラブ等を巡回訪問し、情報共有と連携を図り虐待予防に繋げる。										
	概要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項				
要	最終予算額(5年度は当初)	千円	3,870	4,182	3,555	3,729	令和4年度に子ども家庭総合支援拠点設置に伴い、課名が子ども総合相談室に変更					
	決算額(A)	千円	3,570	3,248	3,298							
	決算額のうち一般財源	千円	1,953	1,777	1,779							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果
	事業の実績	1 総相談件数(延件数)	件	1,219	1,503	1,827	
		2 うち虐待相談(延件数)	件	580	736	874	<ul style="list-style-type: none"> 電話相談カードの配付(2万枚) 巡回訪問 129か所 子育て講座、虐待予防講座の開催 7回 子どもへの虐待予防ミニ講座 小学校4~5年生対象 3校実施 子どもに関わる職員研修会の開催 2回 要保護児童 103人 継続112人+新規41人-終結50人=103人
		3 うち虐待相談(実人数)	人	155	136	136	
事業の成果		1 虐待相談のうち終結実人数(前年度までに相談があり、当該年度に終結した人数)	人	-	72	87	
		2 ケース検討会の開催	回	96	100	97	
		3 うちケース対応連携先合計(教育・福祉・医療・県・他市町・民間)	回	224	299	406	

事業の評価	区分		判定及び説明・考察			
	有効性(達成度)	期待された成果は得られたか	A	虐待相談について、87人/136人終結した。ケース会対応連携先の増加 R3 299か所→ R4 406か所【新規】子ども向け虐待予防ミニ講座開催による啓発		
必要性	事業のニーズに変化があるか(事業実施後のニーズの変化)		<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	市の関与を見直す余地はあるか(市が関与する範囲は適切か)		<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)
効率性	効率性を高める余地はあるか(効率的に実施できたか)		<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)
	公平性を見直す余地はあるか(事業の効果は公平に配分されたか)		<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり(R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり(R6以降改善)
	上記等を踏まえた事業の振り返り	相談の中で多数を占める虐待相談の改善。ケース会で、平均4か所以上の多機関連携で支援を行った。巡回訪問で顔の見える関係を築き、支援や見守りが必要な子どもの早期発見・早期対応に繋がった。新たに子ども向け虐待予防ミニ講座を開催した。				
	今後/令和5年度の主な取り組み	多機関(教育、福祉、医療、民間事業所)連携による支援を強化。巡回訪問事業を継続。子ども向けの虐待予防ミニ講座開催継続。子育て講座及び虐待対応講座の実施により啓発を行い、虐待防止や子どもの支援に繋げる。子どもに関わる職員(行政・教育・福祉関係機関)対象の講演会継続。職員の資質向上の為、国、県主催の研修に参加する。R6.4のこども家庭センター設置に向けて、健康福祉部関係部署との調整。				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	青少年教育のための環境づくり
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	健康で豊かな心の育成

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	24	事業名	青少年育成事業				開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対 象	小中学生									
事業の概要	目 標	豊かな心を育む教育を推進し、青少年の健全な人間形成を目指す。										
	事業内容	市内の豊かな自然や多種多様の文化を生かした体験活動を進め、五感を通じた育成を進める。市内施設の利用等への補助のほか、市主催の事業においても学習活動を実施し、一過性の体験に留まらず継続的な学習活動へと繋げる工夫を加えている。また、地域のおとなとの関わりの機会を持ちながら、青少年育成につなげていく。										
要	予 算	単 位	2 年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	14,004	13,732	13,053	12,857						
	決算額（A）	千円	10,373	9,850	10,696							
	決算額のうち一般財源	千円	9,845	9,490	10,294							

実績と成果	区 分		単 位	2 年 度	3 年 度	4 年 度	左記以外の令和4年度の実績・成果 市主催事業である「ジオ・サタデー」では参加した児童がその後、家族を連れて同じ場所を訪ね自ら学習内容を説明したという事例もある。身近に興味深い学習の場所があり、だれもが学べるきっかけのひとつとなっている。	
	事業の実績	1	野外体験活動参加助成対象事業	回	14	15		15
		2	ジオ・サタデー実施回数	回	5	3		6
		3	育成センター巡回回数	回	421	350		411
	事業の成果	1	野外体験活動参加児童数	人	6	15		51
		2	ジオ・サタデー参加者数	人	52	34		67
		3	育成センター巡回指導件数	件	595	1,623		3,191
		4	白山登山宿泊助成児童数	人	6	38		73

事業の評価	区 分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	青少年育成に関わる事業に幅広く取組み、振り返りの記録の機会を設けている事業もある。参加者がさらに学びを広める機会にもなっている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	野外体験、白山登山、ジオ・サタデー事業など、何度も取組みたい・参加したいというニーズはある。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	参加人数や成果の観点から効率性は十分である。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	対象者へのチラシの配布、HPでの周知などを行っている。
	今後/令和5年度 の主な取り組み	年度当初における学校への周知のほか事業について開催前に周知を図り、参加者等の拡大に努めていく。					
	次年度の 主な取り組み	ユネスコ世界ジオパークの認定を機に、「ジオパーク学習」を意識した学習機会を増やし、市内各地域の魅力の掘り下げに努める。参加者がさらに周囲に学習内容を広めることができる仕組みづくりを進めていく。					

第2次白山市総合計画		SDGs目標			
章 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり		社会	経済	環境	ガバナンス
節 健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します					
項 生涯学習を推進する環境の整備					
教育行政の基本目標及び基本施策					
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり	基本施策	市立図書館の充実と機能強化		

No	事業名	図書館管理運営事業					開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対象	市民									
事業の概要	目標	利用者数の増加										
	事業内容	図書館情報システム賃借料及び保守委託費、施設管理業務、図書購入費、ブックスタートパック配布、会計年度任用職員賃金、移動図書館運営事業、はくさん電子図書館事業、その他管理費										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	191,743	192,416	171,755	172,820						
	決算額（A）	千円	161,157	183,543	167,148							
	決算額のうち一般財源	千円	154,260	141,558	162,257							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果				
	事業の実績	1	ブックスタートパック配布人数	人	805	805	754	・ 団体貸出数 (学校等) R2 21,595冊 R3 23,657冊 R4 24,561冊	・ 相互貸借数 (貸出数) (借受数) 903冊 1,043冊 1,450冊 1,001冊 1,136冊 1,050冊		
		2	おはなし会開催数	回	0	60	163				
		3	移動図書館利用者数	人	1,059	1,337	1,170				
	事業の成果	1	入館者数	人	287,102	353,088	382,437	・ 電子図書館 (ログイン数) (実利用者数) (貸出数) (タイトル数) R3 6,338人 382人 2,942冊 4,288点 R4 6,473人 293人 3,369冊 4,414点			
		2	貸出点数	点	508,071	602,571	572,207				
3		資料蔵書数	冊	568,432	578,763	586,417					

事業の評価	区分		判定及び説明・考察									
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	新型コロナ感染症対策を実施しながらも、入館者数は増加している。ただ、貸出点数等については微減で、横ばい状況なため、コロナ禍の影響を感じる。各々の事業については、概ね開催することができ、徐々にではあるが、来館者が戻ってきていると考えられる。								
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	コロナ感染症拡大による社会生活環境の変化、新たな電子機器の普及などの急速な通信環境の変化など対応すべく、電子図書館、Wi-Fi環境を整備した。					
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	新型コロナ感染症拡大期に減少した利用者数等は、概ね回復してきており、地域の情報拠点として十分に活用されている。					
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	経費の節減に努め、効率的な運営を行っている。					
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	利用者に対するサービスは、規程に基づき対応しており、公平に行われている。					
上記等を踏まえた事業の振り返り		当初予定していた行事等を概ね開催したことにより、入館者も増え、改めて図書館の重要性を確認した。また、新たなサービスとして全館に公衆無線LANを整備しサービスの充実を図った。移動図書館事業については、車両が市の基準（20年、20万km）を令和7年度に迎えることから、継続に向け、新規車両購入と車両の整備による状態回復の可否を見極める必要がある。										
今後/令和5年度の主な取り組み		コロナ禍で中止している行事を含め、利用者のニーズに合ったものを提供すべく、スクラップアンドビルドを講じながら各種事業を進める。電子図書館では、ジオパーク世界認定を受け、関連資料をアップするなど、連携して啓発に努める。また、調べ学習コンクールの作品の一部を複製し、誰でも閲覧できるようにするなど、新たな試みにチャレンジする。更には、魅力的な期間限定型のコンテンツを常時200~400冊貸出できるよう整備し、利用者のニーズに応じていく。										

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	生涯学習を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	学校図書館支援センターの機能強化

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	学校図書館支援センター推進事業					開始年度	H19	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
		対象	小中学校児童生徒及び教職員									
事業の概要	目標	学校図書館と公共図書館、支援センターが連携・協力し、学校図書館の充実と児童生徒の読書活動を推進する。										
	事業内容	学校図書館間及び学校図書館と公共図書館間の図書資料の配送、学校図書館への支援。										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	9,704	10,053	10,191	10,365	予算及び決算額は、図書館管理運営事業の学校図書館図書配送委託料と支援センター職員2名の人件費により算出					
	決算額（A）	千円	9,053	9,894	9,947							
	決算額のうち一般財源	千円	9,053	9,894	9,947							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 参考：1人当たり年間貸出冊数 全国平均：小学生 49冊 中学生 9冊	
	事業の実績	1	配送利用冊数(公共⇔学校)	冊	24,080	27,030		28,517
		2	配送利用冊数(学校⇔学校)	冊	16,006	12,202		10,748
		3						
	事業の成果	1	学校図書館への貸出冊数	冊	15,491	16,673		17,701
		2	学校図書館の貸出冊数 (一人当たり年間貸出冊数)	小学校:冊	137	134		128
中学校:冊		42		39	38			

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	S	コロナ禍による影響が続く状況であったが、司書部会等との情報共有を図り、事業の円滑な運営に努めた。また、学校図書館への貸出冊数が白山市教育振興基本計画（2019改定版）に定めた2023年度目標値14,000冊を大きく上回るなど、有効に活用されており、安定的に高い成果を保っている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	コロナ禍においても、配送冊数は続伸しており、一人当たりの貸出数も、横ばいではあるが、全国平均以上であり、生徒らのニーズに応えられていると考える。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内の小中学生が感性豊かに調べ学習や読書活動を行うために、これまで培ってきた公共図書館と学校図書館のネットワークを堅持していく必要がある。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内小中学生の調べ学習の推進、読書活動等に関して学校図書館へ図書資料提供、レファレンス支援を行なうなど、読書に親しむ環境づくりの推進に寄与している。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内の全ての学校図書館と公共図書館がネットワークでつながっており、どの地域の子どもでも、同じように本を読むことができる読書環境を整備している。
上記等を踏まえた事業の振り返り		今後とも、学校図書館とのネットワーク機能を活用するとともに、資料の充実、レファレンス対応等による学校図書館への支援を継続する必要がある。ただ、この事業の根幹である配送について、請負者の高齢化など課題がある。					
今後/令和5年度の主な取り組み		公立図書館と学校図書館を繋ぐ本市の特色ある事業で、全国の図書館関係者からの視察が相次ぐなど、関心の高い事業でもある。今後は、規則化や職員配置など組織化をすすめ、学校図書館を支援する体制の継続、堅持が必要である。					

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	生涯学習を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	生涯にわたり学び続ける環境づくり
基本施策	障害者の学びへの支援

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	27	事業名	公民館施設整備事業			開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	地区住民										
	目標	公民館施設の建て替えや大規模修繕を施行し、住民の生涯学習の拠点を整備する。										
	事業内容	未耐震公民館の改築事業、防災倉庫建設事業、軽体育館床改修事業等のハード整備を通して、誰もが利用しやすい公民館施設としていく。誰もが使うことができ地域の拠点となることを地区住民等に周知することで、より多くの利用に繋げていく。										
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	230,270	687,822	355,816	663,558	緊急防災減災事業債 充当率100%、交付税70%					
	決算額（A）	千円	197,388	648,390	314,539							
決算額のうち一般財源	千円	15,613	45,590	13,939								

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果	
	事業の実績	1	改築（防災コミュニティセンター）	箇所	0	2		0
		2	公民館軽体育館床改修	箇所	0	3		3
		3						
	事業の成果	1						
		2						
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	改築の公民館について防災コミュニティセンターとして災害に備える機能も追加し、生涯学習の振興及び住民の安心安全を守る施設として整備している。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	災害時の避難施設として施設整備の機能強化が求められている。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市が改修等を計画的に実施する。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	建設の計画を勘案し改修工事等を実施していく。
		公平性 公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	各館からの要望や緊急性・重要性を踏まえ、誰もが使いやすい施設となるよう随時改修を行っていく。
	上記等を踏まえた事業の振り返り		公民館機能の他に防災コミュニティセンターとして、防災機能を有した誰もが使いやすい施設となるよう改修等を進める必要がある。				
	今後/令和5年度の主な取り組み		順次改築等のハード面の整備を進めていく。また、多様性の観点からも幅広い世代が利用しやすく多くの人が多様な目的で訪れることができるよう時代に合わせた生涯学習の拠点を目指していく。				

事務事業別点検・評価シート（個別シート）

基本目標6

健康な心身をはぐくむ
スポーツの推進

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	スポーツ活動を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	健康な心身をはぐくむスポーツの推進
基本施策	生涯スポーツの充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	地域スポーツ推進事業					開始年度	H17	実施方法	委託	国庫等・市単	市単
	対象	市民										
事業の概要	目標	「うぐいす運動」の推進やスポーツレクリエーション交流会等の開催により、市民にスポーツに触れ合う多様な機会を提供し、生涯スポーツの推進を図る。										
	事業内容	地区公民館への委託事業として実施している「うぐいす運動」の推進や市スポーツ協会が主体となったスポーツレクリエーション交流会等の開催 R4年度スポーツ・レクリエーション交流会 〔中期〕10/10・〔後期〕2/19 【〔前期〕中止】〔参加人数 合計355名〕 競技：ソフトバレー、カローリング、グラウンドゴルフ、体力測定、パークゴルフ、パドルテニス、ポッチャ										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	6,257	6,257	6,257	6,257						
	決算額（A）	千円	3,456	4,056	5,828							
	決算額のうち一般財源	千円	3,456	4,056	5,828							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 うぐいす運動については、コロナ対策による制限緩和により増加した。 スポ・レク交流会は、前期・中期・後期の3回を実施する予定であったが豪雨災害のため前期のみ実施できなかった	
	事業の実績	1	「うぐいす運動」実施公民館数	公民館	27	27		28
		2	スポ・レク交流会実施	地区	0	0		2
		3						
	事業の成果	1	「うぐいす運動」実施事業数	事業	108	149		182
		2	スポ・レク交流会参加者数	人	0	0		355
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	地域スポーツの推進を目的とした「うぐいす運動」や「スポーツレクリエーション交流会」は、各公民館や地域ごとに継続した取組が行われており、生涯スポーツの推進とともに、豊かな地域コミュニティの醸成に役立っている。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)
上記等を踏まえた事業の振り返り		「うぐいす運動」と「スポレク交流会」は地区行事、地域行事として市民に定着してきたが、より幅広いニーズに応えるため、様々な年代が楽しめるよう事業内容を充実させていくことが必要である。					
今後/令和5年度の主な取り組み		事業継続によるスポーツ活動の定着と年代を問わずスポーツを楽しめるよう事業内容の見直し、または充実を図る R5年度 〔前期〕8/20 ペタンク 〔中期〕10/9 グラウンドゴルフ、パークゴルフ、カローリング、ソフトバレー、体力測定 〔後期〕1/14 ビーチボールバレー、ポッチャ					

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	スポーツ活動を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	健康な心身をはぐくむスポーツの推進
基本施策	生涯スポーツの充実

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

No	事業名	スポーツ振興総務事業					開始年度	H17	実施方法	直接・補助	国庫等・市単	市単
		対象	市民									
事業の概要	目標	市内の主要なスポーツ団体等への各種助成事業を行うことにより、市のスポーツ振興と競技力の向上を目指す。										
	事業内容	スポーツ協会、スポーツ少年団に対する各種補助事業の実施及びスポーツ振興事務 補助団体：白山市スポーツ協会、白山市スポーツ少年団										
要	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	49,862	47,741	38,411	39,107	令和元年度よりスポーツクラブ協議会事務局は、健康福祉部へ移管					
	決算額（A）	千円	26,715	28,450	31,357							
	決算額のうち一般財源	千円	26,715	27,331	31,357							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 ・第74回県民体育大会夏季大会（豪雨災害により中止） ・第74回県民体育大会冬季大会（アルペン競技・スキークロスカントリー競技、総合男子優勝・女子優勝） ・トップアスリート体感事業 sompoボールゲームフェスタ	
	事業の実績	1	補助団体数	団体	2	2		2
		2						
		3						
	事業の成果	1	スポーツ協会加盟競技協会数	団体	44	44		44
		2	スポーツ少年団加盟団体数	団体	70	70		66
3		スポーツクラブ協議会加盟団体数	団体	-	-	-		

事業の評価	区分		判定及び説明・考察				
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	スポーツ大会等は、コロナ禍での開催であったが、スポーツの振興と競技力の向上を目指した各種施策の実施に市と共同で取り組んだ。			
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	コロナ禍で開催が困難な状況であるが、市民スポーツ大会をはじめとした各種競技会の開催や指導者研修会など、安定した事業の運営のニーズがある。参加者増加の工夫や事業内容の見直しにも努めている。
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	スポーツ協会等は、スポーツ振興と競技力の向上を目指す市の各種施策の実施に必要不可欠な団体である。スポーツ少年団の活動では、スポーツによる青少年の健全育成を目的としている。
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	各団体ともに、毎年事業内容を精査し計画的な組織運営に努めている。
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	市内全域で、幅広い年齢層を対象に事業を実施している。
	上記等を踏まえた事業の振り返り		近年、スポーツ少年団の加入者数が減少傾向 (H29: 1,824人⇒H30: 1,703人⇒R元: 1,648人⇒R2: 1,588人⇒R3: 1,727人⇒R4: 1,686人) 児童数減少によりチームとして成り立たなくなったため。今後も加入者を増やすことができる体制づくり、また地域スポーツのさらなる推進を図るため、若い指導者の育成も必要である。				
			加入者を増やすことができる体制づくり、また地域スポーツのさらなる推進を図るため、若い指導者の育成。 R5年度 (1)世界水泳事前合宿受入 (フランスOWSチーム) (トップ選手と地元小学生との交流によるスポーツに対する関心向上を図る) (2)宝くじスポーツフェア ドリームベースボール 9/23開催予定 (元プロ野球選手による野球教室や親善試合の開催)				

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	スポーツ活動を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	健康な心身をはぐくむスポーツの推進
基本施策	競技スポーツの振興

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	32	事業名	ジュニア競技力向上育成事業			開始年度	H17	実施方法	直接	国庫等・市単	市単
	対象	小中学生										
	目標	子どもたちがスポーツに親しむ環境づくりを進めることにより、子どもたちの健全な育成と競技人口の拡大を目指す。										
	事業内容	ジュニア選手の育成強化に積極的に取り組んでいる団体に対する補助金の交付 R4実績 小学生の頃から全国大会に出場している児童のより一層なる競技力向上を図ることで 令和4年度は水泳、トランポリンの選手では全国入賞する選手が育ってきている状況である										
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	2,400	2,400	2,400	2,400						
	決算額（A）	千円	2,070	2,070	2,020							
決算額のうち一般財源	千円	2,070	2,070	2,020								

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 交付団体：水泳、陸上、剣道、スキー、サッカー、ラグビー、バドミントン、トランポリン、テニス	
	事業の実績	1	交付団体数	団体	9	9		9
		2						
		3						
	事業の成果	1	育成児童・生徒数	人	555	581		563
		2						
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	コロナ禍で中止となる大会もあったが、水泳やトランポリン競技などで、全国大会で優勝、入賞する多くの選手を育成している。 概ね期待どおり									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	競技力の向上と競技人口の拡大を図るため、各団体からは事業の継続を求められている。						
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	ジュニア選手の育成と競技人口の拡大を図るため、必要な事業である。						
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	各競技団体が作成した年間スケジュールに基づき、効率的に事業が実施されている。						
		公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	団体からの申請書類を厳正に審査し、要件を満たしている9団体に対して補助金を交付している。					
	上記等を踏まえた事業の振り返り		現在は、要件を満たしている9団体に対して補助金を交付し有効な成果を得られているが、その水準の維持と競技人口の拡大が今後の課題である。										
	今後/令和5年度 の主な取り組み		競技力向上を図るため継続して強化の推進を図る										

第2次白山市総合計画	
章	地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり
節	健康な心身を育む生涯学習・スポーツを推進します
項	スポーツ活動を推進する環境の整備
教育行政の基本目標及び基本施策	
基本目標	健康な心身をはぐくむスポーツの推進
基本施策	スポーツ活動における安全確保

SDGs目標			
社会	経済	環境	ガバナンス

事業の概要	No	33	事業名	学校開放推進事業			開始年度	H17	実施方法	直接・委託	国庫等・市単	市単
	対象	市民										
	目標	身近な学校施設を市民に開放することにより、市民の利便性の向上を図るとともに生涯スポーツを推進する。										
	事業内容	小中学校の体育館、グラウンドの一般開放										
	予算	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	特記事項					
	最終予算額（5年度は当初）	千円	7,029	7,029	7,029	7,029						
	決算額（A）	千円	5,186	6,053	6,939							
	決算額のうち一般財源	千円	4,894	5,722	6,568							

実績と成果	区分		単位	2年度	3年度	4年度	左記以外の令和4年度の実績・成果 新型コロナウイルス感染防止対策の緩和による利用者の増加	
	事業の実績	1	学校開放数	校	27	27		27
		2						
		3						
	事業の成果	1	利用者数	人	328,398	367,435		410,430
		2						
3								

事業の評価	区分		判定及び説明・考察										
	有効性 (達成度)	期待された成果は得られたか	B	市内の全小中学校で学校開放事業を行っている。利用者は天候等により増減があるが、市民の身近な地域スポーツ施設としての機能を果たしている。 概ね期待どおり									
	必要性	事業のニーズに変化があるか (事業実施後のニーズの変化)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横這い	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	市民のスポーツや健康づくりの必要性に対する意識は向上しており、身近な地域スポーツ施設としての市民のニーズは高い。						
		市の関与を見直す余地はあるか (市が関与する範囲は適切か)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	学校施設の地域開放事業は、文部科学省においても推進されているため、継続して実施する。						
	効率性	効率性を高める余地はあるか (効率的に実施できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 余地無し	<input type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	利用の受付事務は各学校で行っており、利用者の利便性に配慮した効率的な運営に努めている。						
	公平性	公平性を見直す余地はあるか (事業の効果は公平に配分されたか)	<input type="checkbox"/> 余地無し	<input checked="" type="checkbox"/> 当面は余地無し	<input type="checkbox"/> 余地あり (R5に改善)	<input type="checkbox"/> 余地あり (R6以降改善)	学校施設開放事業は地域住民を対象としたものであるため、当面は現状の運営方法を継続する。(施設周辺の地域住民を優先する)						
	上記等を踏まえた事業の振り返り		学校は地域住民にとって身近な施設のひとつであり、地域の実情に照らし合わせながら運営形態の見直しを進めていく必要がある。										
	今後/令和5年度 の主な取り組み		地域住民のスポーツ活動の場の提供を継続して行っていく。										

令和 4 年度
白山市教育委員会の活動状況

令和4年度白山市教育委員会の活動状況

1 教育委員会（令和4年4月1日現在）

教育長	田村 敏和	教育長職務代理者	竹内 千恵子
委員	北田 朋幸	委員	小寺 正彦
委員	尾張 勝也	委員	安川 薫

2 令和4年度教育委員会の開催状況

- (1) 教育委員会会議 12回
(2) 教育委員会協議会のみ 4回

【会議の主な議案】

- ・第3回教育委員会会議（令和4年4月26日）
令和4年度教育行政の基本方針、基本理念等について
ほか委員等の任命、委嘱について
- ・第4回教育委員会会議（令和4年5月31日）
令和4年度白山市一般会計補正予算（教育費）について ほか
- ・第5回教育委員会会議（令和4年6月14日）
東明小学校長寿命化改良工事（建築）請負契約について
財産の取得について
- ・第6回教育委員会会議（令和4年7月28日）
令和4年度白山市一般会計補正予算（教育費）について
- ・第7回教育委員会会議（令和4年8月26日）
令和3年度白山市教育委員会事務事業点検評価について ほか
- ・第8回教育委員会会議（令和4年9月9日）
鶴来中学校体育館大規模改造工事（建築）請負契約について
- ・第9回教育委員会会議（令和4年9月28日）
白山市立公民館長の任命について
- ・第10回教育委員会会議（令和4年10月24日）
令和4年度白山市教育委員会社会教育表彰被表彰者について
- ・第11回教育委員会会議（令和4年11月29日）
白山市立認定こども園条例の制定に伴う関係条例の整理に関する条例について
- ・第12回教育委員会会議（令和4年12月13日）
令和4年一般会計補正予算（教育費）について
- ・第1回教育委員会会議（令和5年2月24日）
令和5年度白山市一般会計予算（教育費）について
白山市立博物館条例の一部を改正する条例について ほか

- ・第2回教育委員会会議（令和5年3月29日）
白山市教育委員会における個人情報の保護に関する法律施行細則について
白山市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則について ほか

3 総合教育会議の開催状況

(1) 開催回数 1回

(2) 開催日、会議事項

第1回（令和4年8月31日）

- ・今後の中学校の部活動について
- ・公民館のコミュニティセンターへの移行に伴う社会教育の在り方について

4 会議・研究会等への参加状況

- ・東海北陸都市教育長協議会（令和4年4月21日）
田村教育長 出席（オンライン）
- ・第1回理事会（令和4年4月25日）
県市町教育長会議
田村教育長 出席
- ・第1回教育委員代表者会（令和4年5月10日）
竹内教育長職務代理人 出席
定期総会
田村教育長、竹内教育長職務代理人、小寺委員 出席
- ・全国都市教育長協議会総会・研究大会（5月12日～13日）
田村教育長 出席
- ・第2回理事会（令和4年7月22日）
田村教育長 出席
- ・市町教育委員会セミナー（令和4年8月2日）
田村教育長、竹内教育長職務代理人、小寺委員、安川委員 出席
- ・第2回教育委員代表者会（令和4年9月30日）
竹内教育長職務代理人 出席
- ・教委連研究大会（令和4年10月28日）
竹内教育長職務代理人、小寺委員、安川委員 出席
- ・第3回理事会（令和4年11月25日）
市町教育長研修会
田村教育長 出席
- ・新任教育委員研修会（令和5年2月1日）
田村教育長 出席

学識経験者の所見

(白山市教育振興基本計画の基本施策及び自己点検・評価に係る意見)

白山市教育振興基本計画の基本施策及び自己点検・評価に係る意見

金沢大学名誉教授

浅野 秀 重

基本目標 1 確かな学力の形成と豊かな心の育成（感性のびのび教育の推進）

（1）学力・学習の基盤づくりの充実

学力・学習の基盤づくりに資するため、4つの施策が掲げられています。基礎・基本としての技能の習得、コミュニケーション能力の育成、指導法の工夫改善、そして家庭教育の充実と地域連携です。

いしかわ学びの指針 12 か条（学びの 12 か条+）の取組による「授業づくり」「基盤づくり」「体制づくり」は、児童生徒の学力向上につながる取組と思われ、積極的な推進を期待いたします。児童生徒が、学びの主体として課題に自ら「能動的」に向き合うことができるよう、先生方も指導法や評価方法の工夫・改善に「能動的」に取り組む、コミュニケーション能力豊かな未来の担い手たる子どもたちの育成を一層志向されますようお願い申し上げます。

なお、「全国学力・学習状況調査」に言及いたしますと、学力向上への取組が児童生徒そして教職員の皆さんの加重的負担にならないことを前提としながら、調査結果の適切な分析を通じて、授業改善や学力向上に取り組み、その成果を市内の各学校で共有できるようにしていただきたく存じます。

◎点検・評価及び目標 家庭教育充実事業

学校と地域の連携促進の一助としての「白山っ子の学びのために」を通じた「家庭学習の手引き」など、主として保護者を対象に作成した啓発資料として受けとめました。家庭ぐるみ・家族ぐるみで児童生徒の家庭学習への取組を奨励していることは何よりです。保護者も子どもとともに意識的に家庭で学ぶ合うような環境が醸成されることを期待します。今後は、本課作成のリーフレットを斟酌しながら地域の状況に応じた内容の啓発資料を各学校で作成し配布していくとのことですが、可能であれば、入学式や終業式等の儀式又は面談等の機会を活用しながらそのリーフレットの理解や普及を図っていただきたく存じます。

（2）活用力（思考力・判断力・表現力）を高める授業づくりの充実

「確かな学力」の形成とともに、培われた知識・技能を活かして考え、判断し、表現し、かつ行動していくは大切なことです。そうしたことに寄与する学習指導の方法や教材の開発等に努め、引き続いての授業づくりを推進して下さるようお願いいたします。

(3) 情操豊かで互いに思いやる心の育成

次代を担う青少年を心豊かに育てることは、彼らよりも先行して生き、かつ青少年の「モデル」たる大人の役割であるとともに使命でもあります。

豊かな社会性の育成、特別の教科「道徳」の指導や特別活動の充実、人権教育の推進など学校が中心となりながらも、家庭、地域・社会が連携・協働して、文字どおり地域の子どもを地域ぐるみで情操豊かに育てることに関わる取組は大切です。とりわけ、児童生徒が、保護者以外の地域の「様々な、意味ある他者」としての大人と接する機会は、取組の意味や意義を地域の方々に確かめ合うとともに、地域ぐるみによる、白山市の子どもたちの健やかな育成に大きな役割を果たす取組であることから、地域の大人がさらに関わることでできる事業の実施についてもご検討いただけますと幸いです。

こうした基本的な考えが、各教職員に共有され、一丸となった取組が漸次的に果実となって児童生徒に還元されることを期待するとともに、まさに「互いに思いやる心」の育成にご尽力くださるよう願います。

◎点検・評価及び目標 いしかわ道徳教育推進校指定事業

各学校において、「考え、議論する道徳」へとシフトした授業による「心に響く学び」の創出、首肯すべきことと思います。今後とも道徳授業の公開、ゲストティーチャーの活用などを通じて、自己肯定感が高く、思いやりがあり、しかも社会参画意欲のある児童生徒の育成を期待いたします。

(4) 運動に親しみ、笑顔あふれる元気な児童生徒の育成

学校の体育の授業や体育的行事、スポチャレいしかわへの登録の奨励、部活動の活性化などに係る施策を通じた環境づくりの成果が徐々にではあっても見える化すると良いですね。

◎点検・評価及び目標 部活動指導員配置事業

学校部活動の地域移行が検討されている中で、部活動指導員対象の講習会等への参加奨励を行うなど、地域に住まいし指導技能を有する人材（指導者）の配置が漸進的に進捗しつつあるという印象です。国のガイドラインに従いながら、かつ地域の実情に応じながら地域の関係機関や団体等との協議・検討を通じて、学校間・種目間に格差が無いことを期しながら、事業の着実な推進を期待します。

(5) いじめ・不登校等への対策

児童・生徒が、学校へ登校できない、学校生活になじめない、「いじめ」に遭う、「いじめ」をする側になる、非行行動をしてしまうなどの課題を抱えてしまわないよう常に温かいまなざしを向けながら取組むことは、大人の大切かつ基本的な役割です。

いじめ・不登校等への対応は、当然に当事者任せではなく、基本的な情報や取組

の成果を可能な範囲で共有し合いながら進めてくださるようお願いしています。

◎点検・評価及び目標 教育相談事業

いじめ、不登校、非行防止活動、SNS等を起因とした課題等への対応に向け、教育センター指導員、学校ソーシャルワーカー、臨床心理士、学校派遣相談員等の専門的な体制を構築するなど、学校及び関係機関並びに家庭等との連携を密にしながら、一体的取組を推進しようとしています。教育支援センターの「ふれあい教室」の運営、専門職員の確保、適切な配置・派遣など、今後とも、いじめを見逃さない学校づくりの取組、不登校等への対応など、地道ではありますが、こうしたきめの細かい取組を恒常的なものとして推進していただきますようお願いいたします。

(6) 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の充実

白山市教育振興基本計画記載のとおり、個に応じた指導を推進する上で、可能な限り少人数指導などによるきめの細かい教育の推進は不可欠です。

◎点検・評価及び目標 少人数教育推進事業

市内全小学校の1年生を30人以下の学級で授業を受けることができるよう、白山市単独事業として講師を採用し配置する当事業は意義あるものと思われます。併せて白山ろく地域における複式学級の解消は、教員の負担の軽減になるとともに、きめの細かい指導の条件整備になるものと思われ、講師確保、個に応じた指導法の在り方の検討などの課題はありまじょうが、今後とも国や県の学級編成基準の見直し等に留意しながら事業の拡充推進を期待します。

(7) 外国語教育・国際理解教育の充実

グローバル化の時代、地方においても国際化の波が押し寄せています。小学校の外国語活動や中学校英語授業等を通じて、外国語に触れ、多(他)文化体験する機会は、生徒のその後の成長発達に計り知れない可能性をもたらすものです。

外国語指導助手(ALT)の確保はもちろん、地域講師等の任用、研修機会の設定等において克服すべき課題はおありでしょうが、小学生や中学生に外国語の言語や文化を知る機会の提供は、英語によるコミュニケーション能力の向上や国際理解に意義あるものであり、授業だけではなく、市内一円の学校全体に取組の成果を一層敷衍してくださるようお願いいたします。

◎点検・評価及び目標 外国語指導助手配置事業

児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成や外国語に対する意欲を高めることに資する当事業は、意義あるものと思量します。ただ、それぞれの指導助手の担当授業時数に違いがあることや資質向上のための研修時間に差があること、さらに地域講師との打合せ時間の確保の困難性、地域講師の任用など、一定の課題があるように認識しますが、費用対効果を重視しながら、事

業実施の意義をご検討いただきたいと思います。

(8) キャリア教育の推進

地域の様々なステークホルダー（関係者）たる各種団体、機関、個人事業主の皆さんなどの協力・協働により支えられている「わく・ワーク体験」などを通じたキャリア教育の機会は、「社会の中の仕事」を考える場のひとつであり、生徒の勤労観・職業観の形成に寄与する事業と考えます。必要な見直しを行いながらさらなる内容の拡充を期待いたします。

(9) 障害のある子どもに開かれた教育の充実

特別支援教育は、特別な支援を必要とする子どもたちの主体的な社会参加や自立を目指す上で、さらに必ずしも支援を必要としない児童生徒にとっても、共生社会を構築する上でも重要な取組ですし、社会的包摂（インクルージョン）の環境を醸成する上でも意義あるものです。

近年、発達障害の傾向がありながら、はっきりとした診断名がつかない「グレーゾーン」の子どもが増えている、と聞き及んでいます。2022（令和4）年からの特別支援教育アドバイザーの新規配置による指導・助言や全校巡回、各小中学校への特別支援教育支援員の配置、スキルアップの研修機会の設定、さらに就学前の相談体制の充実、在学児童生徒の相談の実施など、保護者の皆さんの不安や心理的負担の軽減に努めていただくとともに、障害の態様に応じた個別的で丁寧な指導・支援、今後の方向性に記載されている事項の推進を期待いたします。

なお、場合によっては、吸痰や経管栄養など医療的ケアを必要とする児童生徒のための看護師の配置及び指導医の確保についても予備的な検討をしていただくと幸いです。

◎点検・評価及び目標 特別支援教育事業の推進

当事業は、障害のある児童生徒に対する特別支援教育に係る法に基づいた事業です。特別支援教育支援員及び特別支援教育アドバイザーの配置、支援員や通級指導教室担当者等の資質向上のための研修機会等に取り組みられました。今後とも専門性の向上、情報共有、関係課・機関等との連携強化等を図りながら、障害を持つ児童生徒への支援のさらなる取組を期待いたします。

(10) 学校保健の充実・食育の推進

発育過程にある子どもたちにとって「食」が重要な位置を占めることに鑑み、給食用食材として地元産一等米の提供、地元産食材の積極的利用などは奨励されるべきことと存じます。こうした事業を通じて、「食」についての理解と望ましい習慣形成、栄養摂取による健康の保持増進、陸や海の恵みたる食資源への理解や環境保全、食物アレルギーへの個別対応、食の生産者への理解と勤労を尊重する意識啓発、食の生産、流通、消費の理解、地場産食材の利用促進と郷土の食文化の継承などの推進がなされるのではないのでしょうか。

原材料費の高騰などが指摘されておりますが、地元 J A や J F、さらに地域の生産者の皆さんと連携して地産地消品目 25% という KPI の達成に引き続きご尽力いただきたくとともに、食育は、SDGs の目標 3 「すべての人に健康と福祉を」、14 「海の資源を守ろう」や 15 「陸の資源も守ろう」の考えと軌を一にするものであり、今後とも学校だよりや給食だより等を用いて、安心・安全な食の普及・啓発に取り組まれますことを期待します。

◎点検・評価及び目標 地元産食材使用推進事業

学校給食食材に積極的に地元産食材の利用を奨励する当事業は、自校調理かセンター調理かを問わず、地域の実情に応じて調達する食材に違いはありましようが、今後とも地元産食材をふんだんに利用した給食の安定的な提供を期待いたします。

(11) 幼児教育の充実

振興計画記載のとおり、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性は、改めて申すまでもないことであり、幼・保・小、さらに家庭、地域との連携などその一層の推進を期待します。

(12) 教職員の資質・能力の向上

教員の指導力は、授業の実践力と大きく関わるものであり、教員対象の各種研修は、児童・生徒観に係る資質形成にも資するものと思われ、今後とも恒常的に推進される必要があるものです。予算額が明示されていませんが、研修の成果は必ずや児童生徒に還元されるものであることに鑑み、研修が、教職員の皆さんの内発的な動機付け、さらに教育実践力の向上に寄与するものとなるよう願っています。

学校は、一般的に若手から経験豊かな年代にわたる教員で形成されており、今後とも、実践経験豊かな教員の指導法などが若手教員や中堅教員にうまく継承されるような取組が校内で又は市内若しくは管内の学校間で共有されるのであれば、教員相互の共同意識、つながり合い、学び合い、高め合い意識を強め、白山市及び管内の教育実践の全体的な水準の向上に寄与するものと思います。

なお、巷間、教職員の多忙化が指摘されています。多忙化は、身体的な疲弊だけではなく、精神的な「病み」をもたらしてしまう場合がないとはいえません。管理的な立場の教員だけではなく、学校における業務改善による「教員の多忙化」の改善・軽減への様々な取組が、現場の一人ひとりの教職員に実感できるものとなるよう併せてご尽力いただきたく存じます。不断の多忙化改善へ取り組まれますよう期待いたします。

◎点検・評価及び目標 教職員研修事業

小・中学校での「主体的・対話的な深い学び」を推進することに寄与する教職員の研究と修養は、その成果が基本的には児童生徒に向けられたものと言うことができます。

すでに、初任者研修、授業づくりや学級づくり研修、初任者研修など様々なメニューが準備され、オンライン研修や対面型の方法などで研修に取り組まれています。研修内容の精選を図るとともに、今後は、点検・評価シート記載のようにユニバーサルデザインの学級経営研修、GIGA 端末研修などを加えながら、より一層の拡充を期待いたします。

基本目標 2 教育環境の整備充実

(1) 安全で快適な教育環境の整備

児童・生徒及び教職員が学習と教育の活動を展開する館（やかた）たる学校は、児童・生徒が一日の大半を過ごす「学び、生活の場」としての「公の施設」であり、安全性と耐久性、快適性を併せ持つことが大切です。

もとより災害時には住民の避難場所、防災拠点ともなる可能性があることから、今後とも、安心・安全な施設整備、維持管理に努められるよう望みます。

◎点検・評価及び目標 小中学校施設整備事業

市内の小・中学校の大規模改修や改造、修繕等の工事、空調設備の緊急修繕、Wi-Fi 環境の整備、トイレの洋式化、さらには学校のニーズに応じたエレベーターの設置など学校施設の整備はまさに「待ったなし」と思われます。

学校施設というハード面の整備が、学校におけるソフト事業の取組にも影響を与えることから、着工にあたっての優先順位を設けることはありましようが、今後とも質の高い教育環境の整備に努めてくださるよう願っています。

(2) 安全教育の推進

このたびの自己点検・評価項目は、通学路の点検であります。学校における安全教育に向けて、学校の不審者対策、地震、津波、豪雨、土砂災害等の自然災害、さらに火災、防災訓練、避難訓練、消防訓練は、急迫不正の事態に備える重要な体験的学びの機会です。「またか」という認識を乗り越えるとともに、発災の予測が困難であることに鑑み、日常的な意識形成への取組を期待いたします。

こうした取組により、児童生徒や学校職員の防災意識の向上を図り、今後とも、セーフティロードとしての通学路の危険か所の解消、地域住民による見守り活動、警察署等の協力による交通安全教室の開催、さらに市内の業者さんらの理解と協力を得て、通学等に利用している自転車の制動機能や灯火機能の点検などの取組、登下校に係る安全教育への取組を期待いたします。

今後とも、安全・安心な学校づくりに資する恒常的な活動を通じて、児童生徒そして教職員の防災力、判断力、行動力、自己防衛力などを育てていただきたいと思います。「ふだん」の備えや意識が、「まさか」の時に生きるはずです。

◎点検・評価及び目標 通学路合同点検事業

児童生徒の登下校時の交通安全対策の一環として、市 PTA 連合会と協働しての通学路の危険か所点検事業ですが、登下校時における児童生徒の「ヒヤリし

たこと、ハッとしたこと」の事例、通学路に係る児童生徒のニーズ把握等の取組をご検討いただければ、と思います。そしてその成果が道路管理者や警察、各種団体の街頭指導に活かされていることを願います。

(3) 学校 ICT 化の推進

ICT環境整備事業についてですが、society 5.0の到来を視野に、今後とも国のGIGAスクール構想に基づき1人1台の端末利活用、ICT条件整備、教職員の学校内外における研修等への参加奨励などを期待します。児童生徒の教科用図書にも二次元コードがふんだんに登場するなど、指導者も児童生徒もこれらを授業や家庭学習で積極的に利活用し、AI技術の発達に伴う基本的な「情報リテラシー」能力に磨きをかけ、ICTの推進においても誰ひとり取り残さないようにしていただきたく存じます。なお、機器の進歩は顕著ですので、今後とも、漸次的なICT環境の配備充実及びハードやソフトの更新にご尽力願います。

また、巷間増加しつつあるネットトラブルに巻き込まれることのないような取組や情報モラルの形成に資するため、児童・生徒だけではなく、教職員や地域住民を対象にしたICTに関する研修や講座の開催、さらに啓発資料の配付、市広報の活用など不断の取組を期待します。

(4) 就学支援の充実

日本国憲法26条の「教育を受ける権利」は、社会権的基本権の一つです。経済的に就学困難な児童生徒に対する支援は、教育の機会を提供する側の重要な取組です。

◎点検・評価及び目標 児童生徒就学支援事業

白山市においては、学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費、路線バス経費等の一部に対する援助費を、所得による制限を設けながらも、給付しています。年度ごとの予算額も全体的に増額の傾向にありますし、紙媒体だけではなく、市の広報やホームページで周知するとともに、今後の申請にあたっては、市の電子申請サービスの利用の途について検討し、申請者の利便性を図ろうとしていることは首肯すべき取組と思われれます。今後とも、予算厳しき折ではございますが、さらなる施策の拡充を期待いたします。

基本目標3 文化の継承と創造

(1) 優れた文化芸術の提供と文化芸術団体への支援

児童生徒が優れた芸術や文化に触れることのできる音楽会、美術展、古典芸能などの芸術鑑賞事業の推進は、次代を担う子どもたちに豊かな感性を育てる一助になるものと思いますし、文化芸術団体等への活動支援は地域文化創造に寄与する取組と思います。

「文化創生都市白山」宣言も白山市の文化活動の推進に大きく寄与するものと考えます。今後とも事業の拡充による推進を期待します。

(2) 郷土の先達の顕彰と歴史文化の発信によるふるさと意識の高揚

白山市が誇る芸術・文化に係る偉人等の功績の顕彰や発信は、市民の皆さんのふるさと意識の高揚に資するとともに、全国への広報という側面を有し、たいへん意義あるものですので今後とも創意あふれる多彩な事業の展開を期待します。

(3) 文化施設の充実と活性化

芸術文化に係る活動の「見える化」に大きな役割を発揮する場としての文化施設ですが、施設間の効率的な管理運用を図りながら、白山市における歴史・文化の継承創造により一層貢献されますことを願います。

さて、本年4月から、改正博物館法が施行されました。その第1条「法の目的」が、「社会教育法（昭和24年法律第207号）及び文化芸術基本法（平成13年法律第148号）の精神に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与すること」とされ、第3条「博物館の事業」に、資料のデジタルアーカイブ化とともに、第3項が加わり、文化観光等の活動の推進を図り、地域の活力の向上に寄与するよう努めること、つまり従来の社会教育施設としての機能だけではなく地域活性化の機能の発揮も求められることとなったのです。評者は、新たな機能の発揮が、博物館等の運営の新たな負担を伴うものでないことを願うものです。

◎点検・評価及び目標 松任中川一政記念美術館管理運営事業

白山市ゆかりの文化勲章受章者・中川一政画伯を顕彰するとともに、市内児童生徒対象の公募絵画展、美術館講座、他の機関や団体との共同企画事業などに取り組みました。児童生徒対象の公募絵画展は、現下の状況が少子化傾向にあることに鑑み、事業の周知や公募のあり方等を検討いただきたく存じます。

なお、設置後37年経過とのこと、上述したことでありますが、博物館法改正に伴う新たな役割の付加にどう対応した活動に取り組むか、現体制の新たな負荷とならないような工夫を通じて白山市の魅力をも美術館活動でどう発揮するかをお考えいただきながら事業活動の推進を期待いたします。

◎点検・評価及び目標 博物館管理運営事業

白山市立博物館の管理とともに改修、収蔵品の管理・収集、市民参加の企画の開催、特色ある講座や教室・見学会、地域の個人と協働した鉄道模型ジオラマ展示・運行など様々な企画・催しなどの運営活動に取り組まれたことと存じます。今後、シート記載のように、ホームページやLINE等を活用した情報発信、常設展示の内容充実、博学連携事業の強化などにも取り組み、新たな入館者の開拓に努めるとともに、意外性ある機関や団体との連携協働を通じて、博物館の役割・機能の発揮を期待します。

(4) 文化財を通じた学びのための保存・継承

市内に現存する、国指定の史跡や天然記念物、先人が残した有形、無形の文化財などの保存・継承、文化財の調査等を適切に遂行するとともに、児童生徒のふるさと教育、ふるさと学習のための「歴史ある教材」として活用されるようお願いいたします。

(5) 文化財の公開・活用による学びの推進

文化財は、市にとって、市民にとって「良きもの」「貴重なもの」「町の持てるもの」「財産」そして、「後世に継承すべきもの」であり、白山市の「お宝」です。今後とも、文化財の維持・管理・保全、必要な修復等に取り組みられるとともに、史跡に係る意識・啓発等に努められることを期待しますし、児童生徒さらには市民向けの講座等の学びの場に活かしていただきたく思います。

基本目標 4 地域に根ざした特色ある学校の創造

(1) 白山手取川ジオパーク・白山ユネスコエコパークについて理解を深める体験活動の充実

2023（令和5）年5月24日、白山手取川ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定されたことを評者としても大歓迎いたします。白山市域の地質的・地形的価値の意義や教育場面における啓発活動や認定に至る過程でのたくさんの皆さんの地道で真摯な活動が評価されたものであり、白山地域全体の豊かな自然や人々の営みを人々の学びや地域の活性化に活かしていただきたく存じます。

◎点検・評価及び目標 感性のびのび俳句大会の実施

感性のびのび俳句大会は、2022（令和4）年で15回という歴史ある大会で、市内の全28小中学校からオリジナル作品を募り、市俳句協会へ審査をゆだね、優れた句を顕彰するものです。評者は、俳句の5音・7音・5音の形式は、優れて日本文化を象徴するものと思いますし、俳人「加賀の千代女」を輩出した白山市であるからこそその独自の事業と受けとめます。季語を含めた一定の条件のもとで詠むことで、児童生徒のこれまでの見る、読む、聞く、書くという言語活動を総合的に表出する側面を有しています。6000を超える句が寄せられていますが、自然部門、人の営み部門、季節部門など仮に設定できるのであれば、作品のそうした募り方もあるのではないのでしょうか。

◎点検・評価及び目標 SDGs・白山手取川ジオパーク研究事業

この事業は、2022（令和4）年の新規事業として取り組まれたものです。白山手取川ジオパークの魅力を遺憾なく発揮する上で、研究事業の推進とその成果の発信は重要な取組となります。日本ジオパーク大会への児童生徒の参加を促進しながら、次代の社会の担い手たる児童生徒の育成の場に白山手取川ジオパーク事業が位置づけられ、世界認定を機に、事業がさらに強力で推進されま

すようお願いしています。

(2) 学校評価等を生かした学校づくりの充実

学校長の求めに応じて、学校の運営に関し意見を述べることのできる学校評議員は、学校教育法施行規則第 49 条に基づいて設けられています。保護者や地域の方々の学校への思いや意見を学校運営に活かすための制度です。地方教育行政法第 47 条の 5 が規定している「学校運営協議会」（いわゆる、「コミュニティ・スクール事業」）とは権限に違いがありますが、開かれた学校づくりの一助となるものであり、意見等を踏まえながら学校運営の活性化に活かしていただきたいと思えます。こうした取組は、指導要領の改訂による「社会に開かれた教育課程」の考えと連動するものと考えており、その進捗に係る現状や課題について言及してはいかがでしょうか。

(3) 学校図書館教育の充実

GIGA スクール構想や情報化の進展などが新たな段階を迎えている中、市内全学校に配置している学校司書の皆さんへの期待はますます大きなものとなっています。

学校図書館における蔵書冊数の量的拡充とともに、その活用による学校図書館の利活用を通じた学校教育の質の充実にも取り組まれますよう期待します。

◎点検・評価及び目標 学校図書館充実事業

こんにち、学校における探究型の調べ学習、情報教育の重視など学校図書館を巡っての大きな変化に対応して、ホンとともにヒトたる学校図書館司書への期待が高まっています。非正規採用の職員も一定数いるとのことですが、資質向上のための研修機会の充実、職員自身の用務を通じた Well-being のさらなる実感を目指して、今後とも当事業の拡充を願っています。

基本目標 5 生涯にわたり学び続ける環境づくり

(1) 笑顔かがやく生涯学習の推進

地域コミュニティを構成する住民の「絆」「つながり」の希薄化が各種の調査等で指摘される中、きめの細かい公民館活動は、市民の地域への帰属意識を育てる上でないがしろにはできません。文科省は、「社会教育を通じた『人づくり』や『つながりづくり』は、それ自体が一人一人にとって大きな意義を有するものであるとともに、人口減少時代の地域が直面する様々な困難な状況の中で、地域を活性化し、住民が主体的に課題を発見し共有し解決していく持続的な『地域づくり』につながる意義」をもつ、と述べていますが、住民の地道な学習は、人を育て、つながりを創り、それが「地域づくり」につながる可能性を持っているように評者にも思われます。

◎点検・評価及び目標 生涯学習施設等活用推進事業

白山市内の略称、ピーノ、アクア、クレイン、プララは、市民に生涯学習の機会を提供する、いずれも指定管理者による施設です。それぞれ当該施設の利用促進のための事業をそれぞれの指定管理者が創意工夫しながら、ランチタイムコンサートや体操教室などの自主事業、独自事業を展開しているとのこと、何よりです。

4 施設は類似施設と言えなくもありませんが、今後とも、相互に競合することのないよう自主事業を実施しながら運営するとともに、併せて、所属職員の研修体制、有資格者の配置に努めながら、社会教育施設の側面を活かした事業の推進と施設の認知度向上、利用者拡大のための取組を期待いたします。

(2) 元気あふれる人・地域づくり

評者は、公民館活動に関心を寄せる者ですが、白山市教育振興基本計画によれば、公民館活性化事業の推進と地域活動の推進、生涯学習のまちづくり推進と学習機会の提供、地域団体・グループの育成と活動の促進が三つの柱として掲げられています。

防災、福祉、産業振興、文化交流など、広義のまちづくり・地域づくりに関する多様な行政分野において、世代や属性の違いを超えて住民同士が交流するとともに、住民自身が主体的に学ぶ意思を持ち、教え学び合う当事者となり、その学習の成果が地域における活動に還元されるような循環が社会教育に期待されています。

さて、周知のように、文部科学大臣は、本年6月、国の第4期教育振興基本計画を策定しました。計画において、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングの実現」が提起されていますが、このウェルビーイング(Well-being)は、身体的にも精神的にも社会的にもすべて良好で、すべてが満たされている状態のことで、中教審の生涯学習分科会は、「学びあう、教えあう、助け合う、励ましあうといった相互性に支えられながら、一人一人が主体的・持続的に学んでいくという生涯学習は、多様なウェルビーイングを実現するような場を自らも他者との関係性の中で共に形成していく上で、重要なものである」とも述べていました。

地域住民の生涯学習を振興する上での社会教育の役割を考えると、地域の公民館は、限られた職員、担当者での運営という困難さはあるかもしれませんが、地域の明日を創る「担い手」育て、「大人」育ての場として、地域づくりを推進しているものと思われます。

なお、計画記載の「生涯学習のつどい」や「公民館大会」等は、今、社会教育に期待されている、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」をめざした「学びと活動の好循環」「開かれつながる社会教育」に係る取組等を敷衍、深化する機会との一つと思います。こうした取組の拡がりを考える上で、市の他の部局やNPO等との連携や共催による「白山市の未来を語るフォーラム」など、新たな指向はいかがでしょうか。

◎点検・評価及び目標 生涯学習のまちづくり推進事業

白山市内の 28 公民館は、地域住民の「ひとづくり」「つながりづくり」「地域づくり」に資する事業や講座の開設等を通じて地域の活性化や、学びの好循環を創り出す活動を推進していることと思われます。「はくさん学び舎講座」は、そうした考えのもとで取り組まれている事業として受けとめています。改めて申すまでもなく、それらのための補助金の交付は館活動の重要な財政支援です。白山市は、公民館のコミュニティセンター化に向けた検討を進めておりますが、コミセンが、単なる貸館と化してはなりません。「学び」を館活動や事業推進の要としてきちんと位置づけ、可能であれば社会教育士等の有資格者の配置、さらに、今後の主な取組記載のように「ジオパーク学習」を意識した事業展開を大いに期待します。

◎点検・評価及び目標 公民館活動推進事業

現在、公民館活動への補助は、定額補助＋人口比に応じた事業費補助のようですが、コミュニティセンター化を前提としながらも、地域の方々の学習活動を通じた地域活性化に資する事業の実施を企画したコミセン（公民館）への新規助成、たとえば、シートの次年度の主な取組記載のような若者世代の参加の促進又は現代的課題や SDGs、若しくは学びによる人と地域のウェルビーイングと関わるようないくつかのメニューを提示し、「この中から 1 つ又は 2 つを選択し実施することが望ましい」というようなことを補助要件に加えること等を通じて、地区の各コミセン（公民館）における地域の特性を踏まえた「新たな学び」の創出、地域における「攻め」の社会教育事業の推進に取り組んでくださるような提案はいかがでしょうか。併せて、公民館における人的資源たる主事さんら職員の資質向上、社会教育士資格取得の奨励など社会教育実践のための力量の磨き上げに向けた恒常的な支援を推進していただきたく存じます。

◎点検・評価及び目標 公民館施設整備事業

この事業は、基本施策の「障害者の学びへの支援」に区分される範疇で記載されておりますが、記載内容は、未耐震公民館の改築、防災倉庫建設、軽体育館の床改修、28 公民館すべての Wi-Fi 環境整備であり、文字どおり公民館施設の主としてハード面の整備に関する事項です。ですから、基本目標 5 生涯にわたり学び続ける環境づくり生涯学習の振興の（2）元気あふれる人・地域づくりの位置に掲載しても何ら違和感はないのではないのでしょうか。

災害に強い施設設備の整備をねらいとした事業であり、今後とも、多様性に応えうるような事業の拡充を期待します。

（3）子どもの権利の保障

日本国憲法、児童の権利に関する条例等の理念に基づいて、県内最初に制定された「白山市子どもの権利条例」。この条例に依り「白山市子どもの権利に関する行動計画」が策定されています。この間（かん）、「こども基本法」が新たに制定さ

れるなど、子どもが次代を担う社会の重要な成員として学び成長していく様々な施策が展開されています。今後とも、子どもの権利保障に係る実効性ある取組を期待いたします。

◎点検・評価及び目標　　子どもの権利条例啓発事業

白山市子ども会議についてですが、この事業は、子どもの意見表明の機会の一つとして実施されているものです。事前の研修や調査等を経て、自分たちが暮らし、住まいする「白山市のより一層の望ましい姿」の在り方を、子ども自身の眼、耳、心、身体で感じたことを議場で、やりとりするというスタイルで行われています。白山市行政が市民のためにいかなる施策を展開しようとしているかを直接間接に体験する機会でもあり、今後ともこの取組の拡充を期待いたします。そして、子どもたちからの提案を契機に施策化したり、改善したりした事項については、その旨広報等に努めていただけましたらさらに当事業が実りあるものとなるのではないのでしょうか。

子どもの権利委員会の開催、子どもの権利に係る認知度の向上への取組など子どもの権利条例に係る啓発とともに、市民の皆さんの生活や行動への「子どもの権利」の浸透に向けた取組を、今後とも子ども政策の核的な位置づけにして事業を推進されるよう期待いたします。

◎点検・評価及び目標　　子どもに関する相談事業

18歳未満の子ども自身や子どもに関する悩みをもつ保護者等を対象に、不安などを相談できる事業であり、この事業の充実のため、多機関連携による事例検討会、職員研修会、虐待防止講座の開催、児童生徒や幼児関連施設等の巡回訪問等を具体的な取組としています。子どもを取り巻く環境の多様化に伴い、相談内容も複雑化しているとのことですが、児童福祉法に基づく「子ども家庭総合支援拠点」の整備を機としながら、関係機関等との支援や職員の恒常的な資質向上に努め、子ども支援、保護者支援に努めてくださるようお願いいたします。

(4) 健康で豊かな心の育成

子どもを持つ親を対象に、家庭教育に係る講座・学級・講演会、自然体験活動等の実施は、心豊かな子どもの育成に意義あるものであり、関係機関・団体等との連携を図りながら、実施内容、方法、時期等の見直し等を並行実施し、今後とも推進されますよう期待します。

◎点検・評価及び目標　　青少年育成事業

市内の豊かな自然や様々な文化資源等を活かした野外体験、白山登山、ジオ・サタデー事業などに取り組みされたことと存じます。今後とも、事業の周知や内容の充実を図りながら、創意工夫あふれる継続実施を期待いたします。なお、シート記載のように、やはりユネスコ世界ジオパーク認定は「ジオパーク

学習」の推進に大きな刺激となるものと思われます。白山の魅力発見の取組に向けた裾野の一層の拡がりを通じても次世代の担い手育てを推進して下さるよう願っています。

(5) 市立図書館の充実と機能強化

巷間、活字離れが指摘される中、図書館は、主として「ホン」を通じた「活字」文化の提供拠点であり、様々な知的情報提供拠点であり、生涯学習の拠点の一つです。

屋上屋を重ねるようですが、図書館は、文字どおり「読書センター」であり、「学習センター」であり、「情報提供センター」であるという機能、さらには「地域創生貢献センター」的な機能を果たすことが期待されているようにも思われます。時には地域産業を支える機関でもあります。

なお、図書館の講座によるボランティアの皆さんが、おはなし会で研鑽の成果を発揮することができたりすると、市民の読書活動への支援、市民こぞって「ホン」に親しむ環境の醸成をさらに推進することにもつながるように思います。子ども読書の日、夏期休業、クリスマスなど時宜に応じての開催を是非とも目指し、そのための地道な育成やさらなる支援を期待します。

◎点検・評価及び目標 図書館管理運営事業

「地域や住民に役立つ図書館」を目指し、図書館法第3条の「図書館奉仕」に係る郷土資料を含む図書資料収集、貸出閲覧、読書グループの育成、おはなし会、公開読書会、学校図書館司書との連携による学校図書館の活性化、乳幼児対象のブックスタート事業、住民に本を届けるアウトリーチ的的事业たる移動図書館等々様々な事業や活動等に取組まれたものと思ひます。

限られた予算、人的体制ではありましようが、今後とも、多様化する利用者ニーズの適切な把握に努めながら、市民の読書活動への支援、白山市の産業振興への貢献、市民のための利便性の向上に資する図書館だよりの刊行や市広報を利用した新規購入図書リクエスト、おはなし会の案内等のSNS活用やYouTubeによる朗読動画の配信等など事業内容のさらなる拡充を期待いたします。

(6) 学校図書館支援センターの機能強化

2007（平成19）年、学校図書館と市立図書館との間で架橋的役割を果たしてきている学校図書館支援センターは、市内小中学校に配置された学校司書の皆さんと思いを一つにしなが、配送を中心としなが、研修やそれぞれの取組を通して、学校における「書に親しむ環境の整備」、「本の魅力」の普及に尽力され、図書蔵書整備の充実、センターだよりの発行、書架レイアウトの工夫、スキルアップの促進などの指導・助言などに取り組まれているご様子を成果欄の記載から読み取ることができます。

また、地域住民が蔵書整理、本の補修や読み聞かせボランティアとしての活動な

どについても、学校司書の皆さんに関わっていただくなどこうした大切な活動の継続的充実を願っています。

◎点検・評価及び目標 学校図書館支援センター推進事業

全国平均を大きく上回る児童生徒への年平均貸し出し冊数は、ひとえに学校図書館と学校図書館支援センターとの間の連携協力のたまものと言っても過言ではないと思いますし、学校がどこに所在していても、児童生徒がホンをアクセスできる体制構築に大きな役割を果たしてきているであろう職員の皆さんを労いたい思いです。

今後とも、学校図書館を支援する体制の強化を期待するとともに、各学校図書館の充実と児童生徒の読書活動の推進を併せて期待します。

(7) 障害者の学びへの支援

障害者が生涯にわたって学習することができ、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう学習機会の整備、施設のバリアフリー化などの施策は、今後とも恒常的に推進されなければなりません。

基本目標6 健康な心身をはぐくむスポーツの推進

(1) 生涯スポーツの充実

市民が自らの興味や関心に応じて、生涯スポーツに親しんでいく運動やスポーツ活動を取り入れたライフスタイルの構築を図るために、誰もがスポーツやレクリエーションなどの運動に親しめる、安全で効果的に活動できるスポーツの環境づくりは大切なことです。

白山市では、市の鳥「うぐいす」にちなんで、はくさん「うぐいす」運動が推進されていますが、生涯スポーツの推進、地域スポーツの充実、スポーツ団体の育成、健康・体力づくりの推進等に係る施策は今後とも重要施策の領域として取り組まれることが大切です。

◎点検・評価及び目標 地域スポーツ推進事業

地区公民館への委託事業として実施する「うぐいす運動」、さらに市スポーツ協会が主体となって開催する「スポーツ・レクリエーション交流会」ではカローリング、ボッチャ等のニュースポーツを取り入れるなど7つの種目が行われました。生涯スポーツを推進するとともに、豊かな地域コミュニティの醸成に寄与することができたとのことです。住民に身近な地域コミュニティの施設である公民館や地域ごとでの事業実施の方法は、市民の皆さんから好意的に受けとめられたという印象です。

今後とも、市民の皆さんの種目等に対するニーズ調査等を必要に応じて行うなど、事業内容の見直しや充実に努め、地域スポーツ、生涯スポーツの振興に資する継続的な取組を期待いたします。今年度、3期に分けて開催を予定するスポーツ・レクリエーション交流会が盛況に展開されますよう願っています。

◎点検・評価及び目標 スポーツ振興総務事業

白山市スポーツ協会加盟組織、スポーツ少年団及びスポーツクラブ協議会加盟団体等への各種補助金等の事業は、市民の中に生涯スポーツを普及するとともに、未来のアスリートの発掘や育成などの可能性をもつ取組であると承知いたしております。少子化の影響や、若手指導者の育成など検討課題は多いかも知れませんが、今年度予定するフランスチームの世界水泳事前合宿受け入れ、元プロ野球選手による野球教室や親善試合の開催を契機にするなど、今後とも計画的かつ効率的な管理運営や財政面での支援の在り方に係る間断なき情報収集に努められ、その成果をスポーツの普及を通じた地域住民本位のサービス提供に活かされるよう願っています。

(2) 学校体育・スポーツの充実

学校の運動部でのスポーツ経験は、卒業後のスポーツ生活や生涯スポーツへの取組に少なくない影響を与えるものと思われます。運動部活動への参加奨励は、スポーツに親しむ若い世代の裾野の拡がりに寄与するものであり、歓迎されるべきことと存じます。

また、参加費や交通費補助等による大会への参加や開催に向けた支援、コーチ・部活動支援員の配置などは、学校における部活動の地域への委託に備える可能性を持つものなのではないでしょうか。指導者の発掘や白山市スポーツ協会等との連携強化を進めるなど、引き続き現場のニーズに可能な限り対応できるような内容、種目の設定に尽力していただきたいと存じます。

(3) 競技スポーツの振興

市が、児童・生徒に対し、部活動の遠征や各種大会への参加に係る運行費、バス借上料、部活動用備品購入費等を予算措置し補助する取組は首肯されるべきものであり、選手層の拡がりやスポーツの普及・振興に寄与するとともに保護者の負担軽減にもなるものと思われます。

また、各種大会への参加は、児童・生徒のスポーツ活動の日頃の練習の成果を発揮する機会であり、さらに、スポーツ選手や指導者の顕彰事業は、財政厳しき折とは存じますが、今後とも継続的な支援の取組とさらなる拡充を期待いたします。

◎点検・評価及び目標 ジュニア競技力向上育成事業

ジュニア選手の育成と競技人口の裾野の拡がりを目的とした事業で、水泳やトランポリンなどの種目において、全国大会で上位入賞する選手を輩出するなど事業の成果があがっているものと思われます。現在、9団体（種目）を対象に補助金を交付している状況ですが、シートには、成果の水準の維持と競技人口の拡大が課題、と記されております。

選手や指導者の過度な負担となることのないような支援や寄り添いの在り方を共通認識しながら、漸次的な予算額の増額を期待します。

(4) スポーツ施設の整備・充実

白山市内のスポーツ施設や学校体育施設の整備・充実は、地域住民のその後のスポーツや健康への関心を深化する可能性があり、引き続き拡充を期待します。施設は、当然のことながら経年劣化せざるを得ません。常に安全性を備えた施設として運営されるよう恒常的な整備・充実のための取組を歓迎いたします。

◎点検・評価及び目標 学校開放推進事業

地域の方々にとって、身近な施設である学校施設の主として屋内体育館又はグラウンドの開放は、市民の利便性と生涯スポーツの振興に意義あるものと思量します。利用申請に係る受付事務等は、当該学校が行っているとのことですが、シート記載のように各学校の事情等を考慮しながら、その運営形態や方法の見直しに着手していただくことを希望します。

なお、シートでは、基本施策「スポーツ活動における安全確保」に区分しての記載ですが、評者の直接的な印象としては、「生涯スポーツの充実」又は「スポーツ施設の充実」の範疇の方が、適切ではなかろうかと考えます。

(5) スポーツ活動における安全確保

スポーツに起因する事故を防止、抑止又は軽減を図ることは、選手はもちろん保護者、コーチ監督等関係個人や団体等の願いです。安全に対する取組の事例の積み上げや選手・コーチ等が直接体験又は見聞したことのある「ヒヤリ、ハッと」の事例等を共有しながら、今後とも安心・安全なスポーツ活動の推進、瑕疵あるスポーツ施設となることのないような日常不断の安全点検等を心がけていただきたく存じます。

